令和 2 年度

八代市議会建設環境委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 3月定例会付託案件	2
1. 所管事務調査	53
-

令和 3 年 3 月 1 5 日 (月曜日)

建設環境委員会会議録

令和3年3月15日 月曜日

午前10時01分開議

午後 4時43分開議（実時間314分）

○本日の会議に付した案件

1. 議案第1号・令和2年度八代市一般会計補正予算・第16号（関係分）
1. 議案第4号・令和2年度八代市下水道事業会計補正予算・第3号
1. 議案第5号・令和3年度八代市一般会計予算（関係分）
1. 議案第9号・令和3年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計予算
1. 議案第10号・令和3年度八代市公共浄化槽等整備推進事業特別会計予算
1. 議案第17号・令和3年度八代市下水道事業会計予算
1. 議案第28号・八代市空家等の適正な管理に関する条例の制定について
1. 議案第29号・八代市手数料条例の一部改正について
1. 議案第30号・八代市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正について
1. 議案第31号・八代市浄化槽条例等の一部改正について
1. 議案第32号・八代市宅地分譲審査委員会条例の制定について
1. 所管事務調査
 - ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
 - ・生活環境に関する諸問題の調査（市道腰越～平線について）（第2期八代市営住宅長寿命化計画について）（八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略について及び八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略について）

（農業集落排水処理施設事業及び特定地域生活排水処理事業の地方公営企業法の適用について）

○本日の会議に出席した者

委員長 増田 一喜 君
副委員長 北園 武広 君
委員 大倉 裕一 君
委員 高山 正夫 君
委員 橋本 隆一 君
委員 福嶋 安徳 君

※欠席委員 庄野 末藏 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

建設部長 潮崎 勝 君
建設部総括審議員兼次長 田村 伸司 君
建設部次長 西 竜一 君
土木課長 小原 聖児 君
土木課主幹兼道路建設係長 田島 雄一郎 君
都市整備課長 一美 晋策 君
建設政策課長 竹原 彰吾 君
下水道総務課長 奥村 勝己 君
首席審議員兼建築指導課長 宮端 晋也 君
理事兼住宅課長 下村 孝志 君
下水道総務課主幹兼水洗化促進係長 上村 和寛 君
下水道建設課長 涌田 直美 君
住宅課主幹兼空家対策係長 西田 昌博 君
用地課長 橋本 勇二 君
住宅課市営住宅係参事 岡田 純哉 君
市民環境部長 桑原 真澄 君

市民環境部次長 谷 脇 信 博 君
循環社会推進課長 坂 口 初 美 君
環境センター管理課長 稲 本 健 一 君
理事兼環境課長 武 宮 学 君

○記録担当書記 勇 正 一 君

(午前10時01分 開会)

○委員長(増田一喜君) それでは、定刻となり、定足数に達しましたので、ただいまから建設環境委員会を開会いたします。

本日の委員会に付します案件は、さきに配付してあります付託表のとおりであります。

○議案第1号・令和2年度八代市一般会計補正予算・第16号(関係分)

○委員長(増田一喜君) それでは、最初に予算議案の審査に入ります。

議案第1号・令和2年度八代市一般会計補正予算・第16号中、当委員会関係分についてを議題とし、説明を求めます。

歳出の第7款・土木費について、建設部より説明願います。

○建設部長(潮崎 勝君) 皆さん、おはようございます。(「おはようございます」と呼ぶ者あり)建設部、潮崎です。

本委員会に付託されました議案のうち、議案第1号・令和2年度八代市一般会計補正予算・第16号の建設部所管分につきまして、田村総括審議員兼次長より説明いたさせますので、よろしく願います。

○建設部総括審議員兼次長(田村伸司君) おはようございます。(「おはようございます」と呼ぶ者あり)建設部の田村でございます。よろしく願います。

着座にて説明させていただいてよろしいでしょうか。

○委員長(増田一喜君) はい、どうぞ。

○建設部総括審議員兼次長(田村伸司君) それでは、お手元の議案第1号・令和2年度八代市一般会計補正予算書・第16号をお願いいたします。

3ページをお開きください。

第1表・歳入歳出予算補正のうち、歳出について御説明いたします。

中段の款7・土木費を5億6253万9000円増額補正し、補正後の額は55億6515万2000円としております。

その内訳は、項2・道路橋梁費を2億7195万円増額、項4・港湾費を1億9092万5000円増額、項5・都市計画費を9966万4000円増額するものでございます。

次に、詳細を御説明いたします。20ページをお開きください。20ページの下の表を御覧ください。

款7・土木費、項2・道路橋梁費、目2・道路維持費は、補正額8695万円を加えて、7億532万8000円としております。

補正額の財源内訳につきましては、国庫支出金が4347万5000円、地方債が4340万円、一般財源が7万5000円でございます。

補正額の内訳は、節12・委託料を1000万円、節14・工事請負費を7695万円増額するものでございます。

内容は、表の右、説明欄に記載しております交通安全施設整備事業600万円、道路維持事業8095万円でございます。

両事業とも、国の第3次補正に伴いまして、令和3年度に予定しております事業の一部を前倒しして実施するため、補正をお願いするものでございます。

別冊の右肩に建設環境委員会資料と書いてあります、議案第1号・令和2年度八代市一般会計補正予算・第16号、建設部所管分を併せて御覧ください。

めくっていただきまして、1ページに、上段

のほうになりますけども、鏡町の市道竜西支線 84号線における区画線の設置など、路線一覧と内容などを、めくっていただいて、2ページにですね、位置図を示しております。

同様に、道路維持事業は、1ページ戻っていただいて、市道中央線の舗装補修工事など路線一覧と内容などを、めくっていただいて、3ページが舗装工事、4ページに災害防除事業の位置図を示しております。

予算書に戻っていただき、引き続き、20ページの下の表を御覧ください。

目3・道路新設改良費は、補正額1億8500万円を加えて、11億1479万6000円としております。

補正額の財源内訳につきましては、国庫支出金が1億175万円、地方債が8320万円、一般財源が5万円でございます。

補正額の内訳は、節14・工事請負費を6200万円、節16・公有財産購入費を6550万円、節21・補償、補填及び賠償金を5750万円増額するものでございます。

内容は、表の右、説明欄に記載しております市内一円道路改良事業でございます。

この事業は、道路維持事業などと同様、国の第3次補正に伴い、令和3年度に予定しております事業の一部を前倒しして実施するため、補正をお願いするものでございます。

別冊の建設環境委員会資料を併せて御覧ください。

道路新設改良費の市内一円道路改良事業は、別冊の5ページのほうに、新八代駅への東西アクセス道路となる千丁町の市道新牟田西牟田線の道路改良工事など路線一覧と内容を、めくっていただいて6ページに位置図ですね、7ページも位置図などを示しております。

また予算書に戻っていただき、今度は、21ページ、上の表を御覧ください。

款7・土木費、項4・港湾費、目2・港湾建

設費は、補正額1億9092万5000円を加えて、4億3391万円としております。

補正額の財源内訳につきましては、地方債が1億9080万円、一般財源が12万5000円でございます。

補正額の内訳は、節18・負担金補助及び交付金を1億9092万5000円増額するものでございます。

内容は、表の右、説明欄に記載しております八代港県営事業負担金事業であり、国及び県の八代港整備事業につきまして、国の第3次補正に伴い事業費が確定しましたことから、負担金の補正をお願いするものでございます。

また別冊の建設環境委員会資料を御覧いただきたいと思っております。

港湾建設費の八代港県営事業負担金事業は、8ページに国及び県事業の箇所図、内容、当初予算と今回補正の事業費、負担金などを示しております。A4横の資料になります。

予算書に戻っていただきまして、21ページ、下の表を御覧ください。

款7・土木費、項5・都市計画費、目1・都市計画総務費は、補正額473万円を加えまして、16億7290万円としております。

補正額の財源内訳につきましては、国庫支出金が236万5000円、一般財源も同様の236万5000円でございます。

補正額の内訳は、節12・委託料を473万円増額するものでございます。

内容は、表の右、説明欄に記載しております都市計画法関係事務事業でございます。

この事業は、既存の大規模盛土造成地につきまして、現地踏査やボーリング調査などの変動予測調査を行いまして、危険性が高い箇所の滑動崩落防止対策につなげるものでございます。

今回、県内市町村間の流用受入れに伴いまして、調査対象予定としまして、坂本と泉地区の計10か所につきまして、基礎資料の収集整理

や現地踏査など、第二次スクリーニング計画策定の経費を補正するものでございます。

また別冊のですね、建設委員会資料を御覧ください。

都市計画法関係事務事業は、9ページから13ページになっております。まず9ページが箇所図などを表しております、めくっていただきまして10ページのほうに、先ほど御説明しました事業の流れを表しております。11ページは既存の大規模盛土造成地の一覧表、10か所をですね、表に表しております。12ページ、13ページが位置図になります。12ページが泉町の位置図ですね、13ページが坂本町の位置図となっております。

それでは、予算書に戻っていただきまして、引き続き21ページ、下の表を御覧ください。

目2・街路事業費は、補正額9493万4000円を加えて、2億7034万6000円としております。

補正額の財源内訳につきましては、国庫支出金が4746万7000円、地方債が4730万円、一般財源が16万7000円でございます。

補正額の内訳は、節12・委託料を4938万5000円、節14・工事請負費を3897万5000円、節16・公有財産購入費を301万2000円、節21・補償、補填及び賠償金を356万2000円増額するものでございます。

内容は、表の右、説明欄に記載しております西片西宮線道路整備事業であり、他事業と同様、国の第3次補正に伴いまして、埋蔵文化財調査、道路改築工事、用地補償を前倒しして実施するものでございます。

別冊の建設環境委員会資料を併せて御覧ください。

街路事業費の西片西宮線道路整備事業は、14ページと15ページになります。14ページ

は位置図や概要等を表しております、15ページ、A4横になります、平面図に具体的な内容などを記載したものを示しております。

なお、本事業は、昨年度、埋蔵文化財の試掘調査結果によりまして本調査が必要となり、本年度、調査範囲が確定しましたことや、資材、労務費等の高騰による工事費の増額によりまして、今後、総事業費を5億円から6億5000万円に増額、完了予定を令和3年度から令和5年度に延伸する予定としております。

以上、議案第1号・令和2年度八代市一般会計補正予算・第16号のうち、本委員会に付託されました建設部所管分についての説明を終わります。御審議のほど、よろしく願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（大倉裕一君） 20ページの道路新設改良費の公有財産購入の部分なんですけど、事業の進め方で影響がない程度で、どの路線のどの辺りの購入というようなことをお示しいただければ、御説明をお願いしたいと思います。

○土木課長（小原聖児君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）よろしく願いいたします。

今、委員御質問の件につきましては、千丁町の新牟田西牟田線でございます。あとはちょっと、場所的には控えさせていただきます。

すいません、失礼しました。

もう一つ、本庁所管分の竜西東西12号線も用地買収をする予定となっております。

すいません、もう1点。今のが東西アクセス道路の分でございます、もう一つがですね、竜西幹4号線の用地取得となっております。

以上の3路線でございます。失礼しました。

○委員長（増田一喜君） いいですか。分かりましたか。

○委員（大倉裕一君） 西片西宮線は用地取得

の場所がここですよというふうに、もう説明資料に掲載されとっとですけど、ここの東西アクセス線と竜西ですかね、幹線かな、こちらのほうの具体的なところが示されないのは、どういう関係になるのでしょうか。

○土木課長（小原聖児君） すいません。場所的にはですね、工事箇所が、竜西東西12号線のほうは新八代停車場線付近を交渉を行っております。それから、竜西幹4号線につきましては、3号線への取付部分の路線となっておりますので、ここを一体的に交渉するようにしております。

以上です。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（福嶋安徳君） 新牟田西牟田線の用地取得ですが、これについてはどのくらい。この回のあれで、用地取得で、もう大体済みますか。

○土木課主幹兼道路建設係長（田島雄一郎君）

おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

そうですね。補正予算で大体、おおむね終わりというところになっております。

以上です。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（福嶋安徳君） 分かりました。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 市内一円の道路改良事業でですね、今回は繰越明許で全部翌年度に繰り越ししてあっとですけど、来年度で全て終わるという認識でいいのか、いやいや、まだ継続で次の4年度までかかる事業がありますっておっしゃるのか。その事業名だけ教えてもらっていいですか。事業名と完了年度。

○土木課長（小原聖児君） 今回補正をさせていただいている路線でいきますと、氷川高校前線以外は継続事業となっております。

以上です。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） 氷川高校前線は3年度で終了、その以外の4路線については3年度以降も継続していくということで理解すればいいんですかね。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 西片西宮線ですけど、事業、5年度に完了、延伸するという御説明だったのでしょうか。それで間違いないのかということと、本当に5年度でできるのかなという心配も市民の皆さんからいただいとる。いただいとるといいますか、今の事業進捗に対してですね、計画どおりに進むとだろうかという御心配の声もあるわけですが、今、5年度という声もいただいて、本当に5年度で終わるのかなというもだえもすっとですけど、その辺り、いかがでしょうか。

○都市整備課長（一美晋策君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）都市整備課、一美です。

先ほど次長の説明の中にもありましたように、一応事業を3年度から5年度に延伸したいというふうに考えております。

内容といたしましては、埋蔵文化財調査等々の時間がかかるということで。一応用地につきましては今回の補正予算で用地取得は終了しまして、埋蔵文化財調査につきましても、現地の調査は今回の予算で、最終年度は報告書の作成ということで考えておりました、今のところ、その後ですね、工事を終了ということで、令和5年度までには一応完了ということで予定しているところでございます。

以上、お答えとします。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（高山正夫君） 今の西片西宮線に関連してでございます。確かに埋蔵文化財調査でですね、事業が遅れたりしております。これ、確

認でございますが、この別冊の15ページのですね、③の部分です。この部分の発掘調査の斜線が引いてあります。斜線が引いてない部分については、ここは調査はないということで理解してよろしいのでしょうか。

○都市整備課長（一美晋策君） 今、委員のほうから御質問がありました。15ページの位置図が載っておりますが、こちらにですね、赤色の斜線を引いてある箇所が埋蔵文化財の調査予定地ということで、そのうち、赤色の中が青色で着色している箇所につきましては今年度終了ということで、来年度は、赤の白抜きのところが来年度予定をする埋蔵文化財の箇所ということで、現在予定しているところでございます。

以上、お答えとします。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（高山正夫君） ありがとうございます。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 都市計画法関係事務事業の件なんですけれども、簡潔に言えば、今回、現場のほうを調査をしますよということなんですけど、これから、どういった計画でどのように事業を進めていこうと思っていられるのか、その点をお聞かせいただければと思います。

○建設政策課長（竹原彰吾君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

委員お尋ねのですね、大規模盛土造成地変動予測調査、今後のですね、進め方ということで、すけれども、この建設環境委員会資料のですね、10ページをお開き願えますでしょうか。

10ページのですね、この一番下の欄にですね、宅地耐震化推進事業の流れということで、今後の流れが書いてあります。この一次スクリーニングとありますが、こちらがですね、事業としては県のほうで行っております。一次スクリーニングということで調査対象地域の設定、

今回、八代市の場合は先ほどの説明で10か所ですね、ございます。そちらをですね、まず、ピックアップをされております。一次スクリーニングですね。

今回、補正でですね、お願いしたのが、この二次スクリーニング計画、ここに書いておりますけれども、基礎資料収集整理、現地踏査、あと簡易危険度評価ですね。ここからですね、市のほうで行うということで、今回、八代市として初めて行う事業で、今回この赤のところを行うと。

その後ですね、この二次スクリーニング計画、こちらの計画を基にですね、第二次スクリーニングという工程が出てきます。こちらはですね、ボーリング等の実際的な調査、斜面の安定解析、対策必要性の検討とかですね。

こちら辺を行った後にですね、実際、対策が必要であるという場所につきましてはですね、滑動崩落防止対策、実際の対策、工事とかですね、そこら辺のほうに進んでいくということで、この手順で行きたいということで考えております。

以上です。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。意見はありませんか。

○委員（大倉裕一君） 市内一円道路改良事業、それから西片西宮線の道路整備事業、それぞれ鋭意ですね、予算確保しながら事業に取り組んでいただいているものと理解はしております。できるだけ早期の効果が発動できるようにですね、早期竣工、こちらのほうをお願いしておきたいというふうに思います。

それから、都市計画法関係法の大規模盛土造成地変動予測調査業務委託。初めて私も聞いたも

ので、内容については理解をしていきたいと思
います。これから結果に基づいて予算確保をさ
れていくものだというふうに理解しますので、
こちらのほうも、安全の部分にですね、関わっ
てくるものだと思いますので、早期着工と予算
確保、こちらのほうをお願いしておきたいとい
うふうに思います。

○委員長（増田一喜君） いいですか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（増田一喜君） ほかありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第1号・令和2年度八代市一般会計補正
予算・第16号中、当委員会関係分については
原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めま
す。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本
案は原案のとおり可決されました。

執行部入れ替わりのため、小会いたします。

（午前10時30分 小会）

（午前10時31分 本会）

◎議案第4号・令和2年度八代市下水道事業会
計補正予算・第3号

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、議案第4号・令和2年度八代市下水道
事業会計補正予算・第3号についてを議題とし、
建設部より説明を求めます。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 下水道総務
課の奥村でございます。隣が下水道建設課長の
涌田でございます。よろしくお願いたします。

着座にて御説明申し上げます。

○委員長（増田一喜君） はい。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 議案第4
号・令和2年度八代市下水道事業会計補正予
算・第3号について説明いたします。

別冊の補正予算書・第3号をお願いいたしま
す。

今回の補正の内容は、本年の1月28日に成
立しました国の令和2年度3次補正予算により、
社会資本整備総合交付金の内示がありましたこ
とから、これを活用し、管渠築造工事、中央ポ
ンプ場改築工事及び水処理センター設備の詳細
設計などの事業推進を図るため、所要の事業費
につきまして補正をお願いするものです。

それでは、補正予算書の1ページをお願いい
たします。

第2条の業務の予定量では、主要な建設改良
事業の管渠施設整備費で3億2400万円を追
加し、補正後の額を19億8649万6000
円に、ポンプ場施設整備費で2億4100万円
を追加し、補正後の額を4億8235万300
0円に、水処理センター施設整備費で8800
万円を追加し、補正後の額を4億6393万5
000円としております。

次に、第3条では、資本的収入及び支出額を
次のとおり補正するものとしております。

まず、収入では、第1款・資本的収入、第1
項・企業債で3億2650万円、第2項・補助
金で同じく3億2650万円をそれぞれ追加し、
資本的収入の補正後の総額を37億9412万
9000円としております。

2ページをお願いいたします。

次に、支出では、第1款・資本的支出、第1
項・建設改良費で6億5300万円を追加し、
資本的支出の補正後の総額を47億9354万
5000円としております。

なお、補正額の内容につきましては、後ほど
説明させていただきます。

次に、第4条、企業債では、資本的収入にお
ける企業債の増額に伴い、起債の借入限度額
の変更を行っております。

続きまして、3ページからが下水道事業補正
予算書に関する説明書でございます。5ページ

が補正予算の実施計画、6ページが資本的収入及び支出の明細でございます。

6ページを御覧ください。

まず、収入につきましては、款1・資本的収入、項1・企業債、目1・企業債で3億2650万円を追加しまして、補正後の計を20億5040万円としております。

次に、項2・補助金、目1・国庫補助金で同じく3億2650万円を追加しまして、補正後の計を12億3555万円としております。

7ページをお願いします。

支出につきましては、款1・資本的支出、項1・建設改良費、目1・管渠施設整備費で3億2400万円を追加しまして、補正後の計を19億8649万6000円としております。

補正額の内訳としましては、まず、ストックマネジメントに関する経費としまして委託料及び工事費を合わせ8000万円、その他未普及地域に係る管渠築造工事費としまして2億4400万円を予定しております。

次に、目2・ポンプ場施設整備費で2億4100万円を追加しまして、補正後の計を4億8235万3000円としております。

補正額の内訳としましては、平成29年度から実施しております中央ポンプ場改築工事の4期目として2億2000万円、ポンプ場施設の持続的な機能確保等を図るための点検調査・改築修繕計画を策定するため、ストックマネジメント改築計画策定業務委託として2100万円を予定しております。

次に、目3・水処理センター施設整備費で800万円を追加しまして、補正後の計を4億6393万5000円としております。

補正額の内訳としましては、センター再構築に係る詳細設計業務委託2000万円、ポンプ場施設と同様に機能確保等を図るための点検調査・改築修繕計画策定のためのストックマネジメント改築計画策定業務委託1000万円、汚

泥脱水・汚泥消化タンク設備に係る詳細設計業務委託5800万円を予定しております。

なお、それぞれの予定箇所につきましては、お手元の別紙、建設環境委員会資料を後ほど御参照いただければと思います。

また、今回の補正予算につきましては、全額繰越しを予定しており、後ほど説明いたします令和3年度当初予算と併せまして事業を推進していく予定としております。

以上、議案第4号・令和2年度八代市下水道事業会計補正予算・第3号の説明を終わります。御審議のほど、よろしくお願いたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。それでは、以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第4号・令和2年度八代市下水道事業会計補正予算・第3号については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部入れ替わりのため、小会いたします。

（午前10時39分 小会）

（午前10時41分 本会）

◎議案第5号・令和3年度八代市一般会計予算（関係分）

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、議案第5号・令和3年度八代市一般会計予算中、当委員会関係分についてを議題とし、説明を求めます。

まず、歳出の第4款・衛生費について、市民環境部より説明願います。

○市民環境部長（桑原真澄君） 皆様、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）市民環境部、桑原でございます。よろしく願い申し上げます。

着座にてよろしいでしょうか。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○市民環境部長（桑原真澄君） それでは、議案第5号・令和3年度八代市一般会計予算のうち、当委員会所管の衛生費中、市民環境部及び建設部が所管いたします当初予算について、総括及び方針の一端をまずは述べさせていただきます。

予算書の16ページをお願いいたします。よろしいでしょうか。

款4・衛生費でございます。衛生費欄には、健康福祉部所管分と市民環境部所管分及び建設部所管分を含めた予算額が記載されております。

款4・衛生費の令和3年度予算額は37億4594万2000円で、うち健康福祉部所管分を除く予算は21億992万7000円でございます。

令和2年度予算額は38億6323万2000円で、うち健康福祉部所管分を除く予算は20億4451万6000円となっており、増減額は全体で1億1729万円、約3%の減、うち健康福祉部所管分を除く予算は6541万1000円、約3.2%の増となっております。

増額の主な要因でございますが、水島最終処分場浸出水処理施設解体に伴う経費等が主な理由でございます。

次に、令和3年度の環境施策に関する主な取組として5点ほど説明をさせていただきます。

1点目、環境関連施設についてでございます。

斎場、衛生処理センターなど、市民環境部が所管します施設は老朽化したものが多く、各施設の安全性や処理機能を維持するための対応を

重点的に進めながら、市民への安定的なサービス提供が維持できるよう努めてまいります。

斎場につきましては、昭和55年に供用開始し、40年を経過していることから、平成27年度に策定しました斎場延命化構想に基づき、必要に応じた建築物等の補修を行い、火葬炉耐火材等の補修や関連機器などを交換し、今後10年程度は施設の延命化を図っていくことといたしております。

一方、将来的に安定して安全に斎場機能を維持するためには、施設全体の更新が必要でありますことから、延命化対策と同時並行で新斎場整備の検討を行ってまいります。

衛生処理センターにつきましては、昭和35年の供用開始後、既に60年を経過し、特に老朽化が著しいことから、施設の維持管理を適切に行いながら、できるだけ早く新施設を整備できるよう引き続き検討を進めてまいります。

浄化槽汚泥処理施設につきましては、平成18年の供用開始後、14年を経過し、機器の経年劣化が進んでいることから、施設長寿命化計画に基づき、施設の維持管理を適切に行いながら延命化を図ってまいります。

2点目、ごみ減量化対策でございます。

ごみ減量と再資源化への取組につきましては、市報折り込みによる啓発チラシの配布に加え、市ホームページやスマートフォンのごみ分別アプリサービスを活用し、3Rや食品ロス削減に関する内容のほか、再資源化のための正しい分別方法等を、より多くの皆様へ情報発信してまいります。

また、引き続き、生ごみ堆肥化容器等設置助成金の活用により、家庭における生ごみ減量化の促進を図るとともに、環境センターの施設見学をはじめとする環境学習やイベント等により、市民の皆様や事業者の方々の一層の御理解と御協力の下、燃えるごみの減量化と再資源化に努めてまいります。

3点目、廃棄物処理対策事業についてでございます。

本市における廃棄物の適正処理に関する施策を講じるため、本年度、第5次ごみ問題等対策検討会を設置し、最終処分場に関することのほか、一般廃棄物処理に関する内容を新年度においても引き続き御審議をしていただくこととしております。

4点目、環境保全対策についてでございます。

まず、新幹線の騒音・振動問題への対応として、引き続き沿線地域において、騒音・振動測定を行い、鉄道騒音等の状況を沿線住民の皆様にお知らせする一方、一部地域において基準超過が確認されておりますことから、関係自治体とも連携しながら、鉄道事業者等に対して必要な措置を講じていただくよう要望してまいります。

先日から記事にも出ているところでございますけれども、3月10日からJR九州におかれては、基準超過しているところ、鏡の宝出、また島田地区、坂本の鶴喰と、宮地地区において、3月10日から29日までレールの削正を行っていただくということになっております。

最後になりますが、環境センター、エコエイトやつしろは、平成30年10月の本格稼働以降、安定したごみ処理ができており、令和2年7月豪雨で発生しました可燃性災害廃棄物の受入れも行ったところでございます。

また、エコエイトやつしろを活用した環境学習につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、環境イベントを中止したほか、施設見学も御希望に沿えないことがございましたが、緑地広場につきましては、休日に限らず、昨年同様、家族連れなど多くの皆様に御利用いただいているところでございます。

引き続き、施設の安定稼働に努めながら、ごみの適正処理はもとより、環境学習の拠点としても、より多くの市民の皆様にご利用していた

だけるよう努めてまいります。

以上でございますが、今後も市議会をはじめ市民の皆様のお意見をお聞きしながら、改善すべきところは改善し、環境に優しいまちづくりを目指し、事業の着実な遂行に努めてまいります。

なお、各事業の内容につきましては担当の谷脇次長から説明をいたさせますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○市民環境部次長（谷脇信博君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）市民環境部の谷脇でございます。よろしくお願いいたします。

着座にて御説明させていただきます。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○市民環境部次長（谷脇信博君） では、議案第5号・令和3年度八代市一般会計予算中、本委員会に付託されました第4款・衛生費のうち、市民環境部及び建設部が所管します歳出予算について説明させていただきます。

令和3年度当初予算書の総括につきましては、先ほど桑原部長が説明いたしましたので、私のほうからは予算書の目ごとに順次説明させていただきます。

それでは、予算書79ページをお開きください。

79ページ下段になりますが、款4・衛生費、項1・保健衛生費、目3・斎場管理費でございます。6401万円を計上いたし、前年度より424万3000円の増額となっております。

これは、市斎場の修繕料の増額や、新型コロナウイルス感染防止対策として、市斎場内の消毒業務を委託する費用を計上したことが主なものでございます。

まず、斎場管理費の事業概要について、右端の説明欄を御覧ください。

斎場管理運営費及び下の斎場施設整備事業ですが、松崎町にあります当該施設は、部長の総

括にもありましたとおり老朽化が進んでおりますことから、安全面、衛生面に配慮した適切な管理運営に必要な費用を計上しております。また、施設の老朽化対策として、定期的な改修を実施し、炉などの緊急停止などが起こらないよう施設整備を行うものでございます。

新型コロナウイルス感染症対策事業（斎場管理）は、市斎場の新型コロナウイルス感染症対策として、施設内の消毒業務を委託するものでございます。

生活環境事務組合負担金事業（火葬場）は、東陽町にあります八代生活環境事務組合斎場の維持管理費に充てる本市負担金と、本市及び氷川町の住民が市斎場と八代生活環境事務組合斎場を同額で利用できるよう協定を結んでいる斎場相互利用負担金を計上しております。

次に、節ごとに内容を説明いたしますが、主に金額が大きいものについて述べさせていただきます。

節10・需用費930万8000円は、令和2年度の火葬設備等保守点検により劣化が判明しました炉内台車及び主燃バーナー上部の修繕費308万円、市斎場延命化構想に基づき実施します再燃バーナーの更新費用223万3000円、電気料等の光熱水費159万4000円が主なものでございます。

節12・委託料2975万3000円は、市斎場の運転管理業務委託2791万4000円、火葬設備等保守点検業務委託49万5000円が主なものでございます。

節18・負担金補助及び交付金2484万8000円は、八代生活環境事務組合斎場への維持管理負担金2210万3000円、斎場相互利用協定に基づき八代生活環境事務組合斎場を利用した場合に生じる市負担金274万5000円でございます。

次に、特定財源の御説明をいたします。

その他の特定財源808万4000円は、市

斎場使用料780万8000円、氷川町からの斎場相互利用負担金22万5000円が主なものでございます。

続きまして、80ページをお開きください。

目4・狂犬病対策費でございます。608万2000円を計上いたし、前年度より12万4000円の増額となっております。これは、会計年度任用職員の手当が増額したことが主な理由でございます。

狂犬病予防対策事業は、狂犬病予防法に基づく犬の登録及び狂犬病予防注射事務に要する経費でございます。

節1・報酬135万6000円、節3・職員手当24万5000円、節4・共済費28万円は、会計年度任用職員1名を雇用する経費でございます。

節10・需用費67万8000円は、犬の登録に伴い飼い主に渡す登録鑑札、狂犬病予防注射を行ったことを証明する注射済票の購入や、ふん害防止啓発看板の経費が主なものでございます。

節11・役務費84万円は、狂犬病予防注射を飼い主に通知する郵便料でございます。

節12・委託料261万1000円は、犬の飼い主が行うこととなっている犬の登録及び狂犬病予防注射に関する諸手続を極力簡素化できるよう獣医師会に事務委託する経費93万1000円、毎年4月に実施しております狂犬病予防集合注射の業務委託168万円でございます。

その他の特定財源528万7000円は、犬の登録及び狂犬病予防注射済票交付手数料収入360万7000円、集合注射において飼い主から徴収する注射料168万円でございます。

続きまして、下段の項2・生活環境費、目1・生活環境総務費でございます。2億8580万7000円を計上いたし、前年度より775万5000円の増額となっております。これは、令和2年7月豪雨災害に伴う小型合併処理

浄化槽設置補助金の増額と職員3名分の減が主な理由でございます。

生活環境総務費は、職員26名分の人件費、建設部が予算を執行いたします小型合併処理浄化槽設置整備事業、それと特別会計繰出金事業（浄化槽）に要する経費でございます。

節2・給料から節4・共済費までは、職員26名分の人件費でございます。

節18・負担金補助及び交付金8636万1000円は、小型合併処理浄化槽の通常分150基と豪雨災害対応分の45基の設置補助金が主なものでございます。

節27・繰出金1923万9000円は、八代市公共浄化槽等整備推進事業特別会計への繰出金でございます。

なお、特定財源5334万2000円は、小型合併処理浄化槽設置整備事業に伴います国・県からの補助金でございます。

次に、目2・環境保全対策費でございます。1462万4000円を計上いたし、前年度より688万2000円の減額となっております。これは、令和2年度に実施いたしました地下水中のイオン成分調査が主な理由でございます。

環境保全対策費では、自然環境の状況に応じた対策を行う自然環境保全推進事業、環境保全行動の促進を目的とした自然観察会や出前講座などを実施する環境学習推進事業、環境パートナーシップ会議と連携を図り、環境基本計画に掲げる事業の推進や進行管理、環境保全活動に関する実践的取組を進める環境パートナーシップ推進事業、公害の未然防止と環境負荷の低減に向けた施策を推進し、九州新幹線鉄道の騒音・振動の調査や悪臭調査などを行う環境保全対策事業、日常生活や経済活動を支える恵まれた地下水を保全し継続的な利用を図るため、地下水塩水化調査や地下水有害物質モニタリング調査などを行う地下水保全対策事業、地球温暖化問題への対応として、各家庭における再生可能エ

ネルギーの普及や温室効果ガスの排出量削減を図るための住宅用太陽光発電システムや蓄電池の設置補助等を行う地球温暖化対策推進事業を実施するものでございます。

81ページをお願いします。

節12・委託料426万円は、九州新幹線鉄道騒音・振動調査業務委託173万8000円、自動車騒音常時監視業務委託88万円、悪臭物質分析業務委託59万4000円、工場排水分析業務委託40万8000円が主なものでございます。

節18・負担金補助及び交付金954万5000円は、住宅用太陽光発電システム等の設置費補助金としまして、太陽光発電システム、蓄電池、計140基分の補助金930万円が主なものでございます。

なお、特定財源32万円は、騒音規制及び地下水採取に伴う届出事務に対する県支出金でございます。

続きまして、目3・廃棄物対策費でございます。1367万2000円を計上いたし、前年度より766万4000円の減額となっております。これは、令和2年度に実施しました、し尿処理施設整備に伴う下水道事業計画変更図書等の作成業務委託が主なものでございます。

廃棄物対策費では、チラシ作成などによる啓発、環境学習や環境フェスタなどの開催のほか、生ごみ堆肥化容器などの購入に対する助成事務により、市内から排出される一般廃棄物の減量化を図るごみ減量化対策事業、敷川内環境保全用地の継続的な維持管理を行う敷川内環境保全対策事業、八代市ごみ問題等対策検討会議の開催や不法投棄監視指導員によるパトロールを行い廃棄物の適正処理を確保し生活環境の保全を図る廃棄物処理対策事業、し尿処理施設、斎場及び最終処分場の整備に向けた検討を行う環境施設整備事業を実施するものでございます。

節1・報酬322万4000円、節3・職員

手当等58万7000円、節4・共済費72万8000円は、不法投棄や野焼き防止のパトロールを行う不法投棄監視指導員2名の雇用に要する経費でございます。

節7・報償費81万7000円は、八代市ごみ問題等対策検討会委員の報償費61万4000円や、環境学習講師の報償費20万3000円でございます。

節10・需用費173万3000円は、ごみ減量化対策として作成する啓発チラシ及びごみ分別ガイドブックの印刷製本費87万3000円のほか、消耗品費35万円、公用車の燃料費30万4000円が主なものでございます。

節11・役務費43万円は、突発的な周知チラシの市報への折り込み手数料13万7000円のほか、不法投棄物の処理に係る手数料10万円や不法投棄警告看板の作成手数料12万1000円が主なものでございます。

節12・委託料316万3000円は、敷川内環境保全用地の維持管理委託経費205万3000円、二見・昭和・坂本地区の民間最終処分場周辺における環境調査に要する委託経費96万4000円が主なものでございます。

節18・負担金補助及び交付金170万円は、一般家庭から排出される生ごみ減量化を図るため、コンポスト式生ごみ堆肥化容器60基分と電気式生ごみ処理機50機分の購入者に対する助成金でございます。

特定財源の国県支出金33万7000円は、熊本県産業廃棄物最終処分場周辺環境整備等補助金でございます。

また、その他特定財源207万7000円は、敷川内環境保全用地維持管理基金からの繰入金及び基金利子でございます。

続きまして、下段の目4・環境衛生費でございます。541万3000円を計上いたし、前年度より37万8000円の減額となっております。これは、ボランティア清掃活動専用袋の

作成費の減額が主なものでございます。

環境衛生費では、感染症のおそれのある衛生害虫の駆除などを行う衛生害虫駆除事業、環境美化への意識高揚を図り良好な生活環境の確保に努める環境美化推進事業、市営墓園3か所の維持管理を行う墓地関係事業を実施するものでございます。

節1・報酬134万3000円、節3・職員手当等24万5000円、節4・共済費27万4000円は、会計年度任用職員1名を雇用する経費でございます。

82ページをお開きください。

節10・需用費145万8000円は、衛生害虫の駆除に要します薬剤などの消耗品費51万円、ボランティア活動袋などの印刷製本費40万1000円、消毒機器などの点検整備に伴う修繕料17万2000円が主なものでございます。

節12・委託料151万9000円は、排水路等の害虫駆除委託67万1000円、市営上片墓園、鏡墓地公苑、東陽墓地公苑、3か所の清掃業務委託77万7000円が主なものでございます。

81ページに戻りますが、歳入その他の特定財源176万3000円は、上片墓園の新規使用料及び市営墓園3か所の管理料収入でございます。

再び82ページに戻りますが、目5・塵芥処理費でございます。14億1371万7000円を計上いたし、前年度より6146万円の増額となっております。これは、主に、水島最終処分場浸出水処理施設の解体に伴う薬剤処理費、設計委託及び工事費に係る増額が主なものでございます。

塵芥処理費では、環境センターの管理運営及び施設整備を行うごみ処理施設管理運営事業及び一番下のごみ処理施設整備事業、閉鎖した清掃センター及び市内3か所の最終処分場の維持

管理を行う塵芥施設維持管理事業、各家庭から排出される可燃物・資源物の収集運搬を行うごみ収集管理事業、新型コロナウイルス感染症の予防対策に係る新型コロナウイルス感染症対策事業、ごみの減量化と樹木、剪定くずの資源化を図る樹木、剪定屑リサイクル事業、八代生活環境事務組合クリーンセンターの最終処分場などの管理や事務に係る共通的な経費を負担する生活環境事務組合負担金事業（じん芥）、千丁支所管内における平成29年、平成30年の一般廃棄物収集運搬業務委託に対しての損害賠償を求める訴訟に係る一般廃棄物収集運搬業務委託契約訴訟関係事業を実施するものでございます。

節1・報酬453万6000円は、施設管理業務における一部を担当する会計年度任用職員1名、施設運営に当たっての事務補助員である会計年度任用職員2名の、計3名を雇用する経費でございます。

節2・給料から節4・共済費までは、職員9名分の人件費が主なものでございます。

節10・需用費2460万9000円は、分別収集容器等購入経費350万円、新型コロナウイルス感染症対策に係るアルコール消毒液の購入費35万7000円、環境センターや閉鎖した清掃センター及び最終処分場の施設設備修繕費や公用車整備点検などの修繕料1839万7000円などが主なものでございます。

節11・役務費1238万3000円は、有料指定ごみ袋を販売していただいております小売店等への販売手数料1161万2000円が主なものでございます。

節12・委託料11億9611万4000円は、環境センターのエネルギー回収推進施設運営委託2億2825万2000円、環境センターのマテリアルリサイクル推進施設の運営委託2億289万5000円、環境センターのエネルギー回収推進施設から排出されます焼却灰の

運搬及び資源化委託1億4569万1000円、環境センターのマテリアルリサイクル推進施設から排出されます資源物などの運搬及び処理委託2134万2000円、清掃センター解体に伴う事前調査業務委託383万4000円、可燃物及び資源物収集運搬業務委託4億7759万6000円、有料指定ごみ袋作製業務委託5903万7000円、有料指定ごみ袋の販売代金収納業務委託1741万8000円が主なものでございます。

節14・工事請負費3500万は、水島町にあります水島最終処分場浸出水処理施設解体工事3500万円でございます。

節18・負担金補助及び交付金6735万5000円は、八代生活環境事務組合クリーンセンターの最終処分場などの管理や事務に係る共通的な経費に対しての市負担金6701万7000円が主なものでございます。

なお、特定財源の地方債3290万円は、水島最終処分場浸出水処理施設解体工事及び設計業務に伴います公共施設等適正管理推進事業債でございます。

その他特定財源の4億58万円は、搬入ごみ手数料収入1億5071万円、有料指定ごみ袋処理手数料収入2億1495万5000円、再資源化物販売代金納付金2419万8000円、環境センター施設使用料479万2000円が主なものでございます。

最後になりますが、下段の目6・し尿処理費でございます。3億660万2000円を計上いたし、前年度より675万3000円の増額となっております。これは、鏡町にあります八代生活環境事務組合の衛生センターでの大型機器点検整備が実施されることに伴う、生活環境事務組合負担金の増額が主な理由でございます。

し尿処理費では、くみ取し尿を郡築12番町の衛生処理センターで処理するための経費である、し尿処理施設管理運営事業及び83ページ

のし尿処理施設整備事業、次に、合併処理浄化槽などの汚泥を新港町3丁目の浄化槽汚泥処理施設で処理する経費である浄化槽汚泥処理施設管理運営事業と、83ページの浄化槽汚泥処理施設整備事業、坂本町に設置している仮設トイレの維持管理に関する災害し尿処理事業（豪雨災害）、八代生活環境事務組合衛生センターの維持管理に関する経費を負担するための生活環境事務組合負担金事業（し尿）を実施するものでございます。

節2・給料から節4・共済費までは、職員3名分の人件費でございます。

83ページの節10・需用費3625万1000円は、工業用薬品購入等の消耗品費345万5000円、衛生処理センターの水道料や電気料、浄化槽汚泥処理施設の下水道使用料及び水道料並びに電気代など、両施設の光熱水費2914万8000円、公用車の点検や故障した機器などの修繕料319万2000円が主なものでございます。

節12・委託料1億4797万1000円は、衛生処理センターの運転管理業務委託3301万1000円、浄化槽汚泥処理施設の運転管理業務委託3511万2000円、衛生処理センターでの発生汚泥を含めて処理する浄化槽汚泥処理施設脱水汚泥収集運搬処理業務委託3896万5000円が主なものでございます。

節13・使用料及び賃借料225万9000円は、令和2年7月豪雨災害発生以降、坂本町に設置しております仮設トイレのレンタル料24万4000円が主なものでございます。

節18・負担金補助及び交付金1億16万1000円は、鏡町にあります八代生活環境事務組合衛生センターの管理運営に係る本市負担金1億3000円が主なものでございます。

その他の特定財源16万9000円は、一般廃棄物処理業等許可手数料収入でございます。

以上をもちまして、款4・衛生費中、市民環

境部及び建設部関係分の説明を終わります。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（大倉裕一君） 最終処分場の建設に向けて計画を進められるような話を、前年度だったでしょうか、伺っておりましたけれども、現在の進捗というのはどのようになっておりますでしょうか。

○循環社会推進課長（坂口初美君） 循環社会推進課、坂口でございます。

最終処分場の整備についてということで、令和2年の7月にごみ問題等対策検討会というのを立ち上げさせていただいて、7月1日に第1回目を行いましたところですが、その3日後に7月豪雨ということで災害対応のほうがございまして、まだ、第2回目を今月開催しようかというところでございます。

建設の計画といいますよりは、この検討会におきましては、建設をするとなればどのような条件について重要かということについての御意見をいただくというところでの会議を進めていこうという予定になってございます。

現在はそのような状況でございます。

○委員（大倉裕一君） 私の認識としては、最終処分場をですね、調査して候補地等を挙げるというような話で進められてるのかなというふうに思っておりましたが、そういうふうに認識を改めたいというふうに思うところです。

最終処分場についてはですね、やはり地域内に設けるのが、ごみを出す者としての責任だというふうにも思っておりますので、今後の取組に注視をしていきたいというふうに思います。

それから、同じ最終処分場で、水島の最終処分場を解体というような予算が組まれておりますが、この水島の最終処分場は、どういう役割をこれまでできて、どのような理由で今回解体というような運びとなったのか、その辺りを

お聞かせいただければと思います。

○環境センター管理課長（稲本健一君） 水島の最終処分場についてなんですけれども、水島の最終処分場は、清掃センターで燃やしました灰のほうを水島の最終処分場のほうに運んで、そちらのほうに埋立てのほうを行っております。平成3年7月18日から埋立てを開始しまして、平成15年1月17日に埋立てが終了しております。そちらにつきまして、今まで管理のほうを行ってきております。

そして、その浸出水処理施設というところでの施設なんですけれども、そこの灰から出ます下の埋め立てしました水についてを、汚水というところになるんですけれども、それを排出基準、放流するに当たりまして基準がありまして、その施設を水質調査を行いながら、悪い水があった場合にはそれをろ過をしまして排出を行うというような施設になります。

そちらの施設のほうの水質調査を今までデータを取りまして、水質調査の結果が良好でありまして、それについて県と協議を行いまして、県のほうに廃止届を行いまして。そちらについてが、令和元年7月2日のほうに廃止届のほうを提出しまして、廃止届についてが認められたものですから、今回、水島最終処分場の解体のほうに至ったという経緯があります。

以上、お答えとさせていただきます。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（福嶋安徳君） 80ページのほうで環境保全対策の中で、地下水の調査をずっとやってきておられますけれども、地下水の調査についてはもう大体終わりますとですか。安全度というのはどの程度になりますか。

○理事兼環境課長（武宮 学君） 改めましておはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）環境課の武宮でございます。

今御質問いただきました地下水に関する調査でございますが、イオン成分量調査のことでよ

ろしかったですでしょうか。（委員福嶋安徳君「はい」と呼ぶ）イオン成分量調査、本年度実施をいたしまして、9月から12月にかけて地下水を採取をしたところでございます。その結果、約550地点の井戸から地下水を採取することができました。

現在の状況でございますが、非常に調査地点が多かったものですから、現在、調査結果の精査をしている段階でございます。

ちなみに、塩水化のエリアだけ、今、作図をしております、その状況だけ申し上げさせていただきます。塩水化の変化につきましては、球磨川以北の地域におきましては塩水化の変化っていうのはあまり見えられなかったものの、球磨川以南の地域、特に金剛干拓地におきましては塩水化のエリアが非常に今縮小をしております。地下水質が回復傾向にあるというようなことを確認をしているところでございます。

このイオン成分量調査は、キーダイアグラムという手法を使って調査をしているわけでございますが、その作図につきましては、これから作図をしたいというふうに思っております。作図が完了しました後には、環境課で毎年発行しております八代市の環境で公表させていただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（福嶋安徳君） ありがとうございます。この地下水の塩水化というのはですね、なかなか、今現在、作物に対して地下水をくみ上げて、いろいろの消毒をしたりとか、かん水作業にするとか、そういった重要な役割があつとるものですから、塩水化というのは大分気にかかるわけですね。だから、それが和らいできたというのは、この八代地域にとりましては大変いいことだと思います。いろいろとまたそういう心配がないようにですね、今後も注意していただければというふうに思っております。あり

がとうございます。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 環境センターの運営状況についてお尋ねしたいと思います。もう丸1年の実績が取れたというふうに思うわけですが、現在の可燃物の状況ですね、1日当たりの焼却処理量、そういったものがどういう状況になっているのかということと、併せて組成状況も調査ができておりましたら、お願いをできればと思います。

○環境センター管理課長（稲本健一君） 環境センターの焼却状況、可燃物についてなんですけれども、可燃物については、1日当たり134トンまでが焼却になっております。そちらのほうで月によってごみの量がやはりありまして、ごみピットのほうに入った分について焼却を行ってまして、マックス134トンまでは焼却ができて、安定的に焼却を行っているところでございます。

こちらにつきまして、もう一つ、今回7月の豪雨災害がありまして、坂本の被災がありました。それについて、環境センターのほうで約1200トンほど、通常のごみとまた別に災害ごみについて1200トンほど、今——2月時点ですけれども、焼却を行っているところでございます。

以上、お答えとさせていただきます。

あと、組成については、ちょっと担当課では今把握していないものですから、すいません。

（発言する者あり）

○委員長（増田一喜君） あとは答えられるんですか。

○市民環境部長（桑原真澄君） そんな、ごみ袋の中のということでもいいんですか。

○委員（大倉裕一君） そうですね。ごみ袋の中の組成。すいません、質問の仕方が悪かった。「それ、そのままでしたね」と呼ぶ者あり

○循環社会推進課長（坂口初美君） 八代市の

燃えるごみの組成の割合の調査について、お答えいたします。

今年度実施しました組成調査の結果は、生ごみが全体の33.9%、それに食品ロス、食べ残し分等を調べておりますのが7.9%、おむつが10.7%、これ以外の燃えるごみとしまして25.9%、燃えるごみの合計としましては78.4%となっております。そのほか、紙類8.9%、プラスチック類9.2%、禁忌品、金属などが含まれておりましたのが0.4%という結果でございました。

以上でございます。

○委員（大倉裕一君） まず、環境センターの全体の処理ですけど、134トンに対して安定的にということところは理解をするところなんですけれども、具体的に134トンに対してどれだけの余力を持っているのかということを知りたいんですね。その点をお聞きしたいというふうに思います。

○委員長（増田一喜君） 分かりますか。

○環境センター管理課長（稲本健一君） 年間の焼却量が、134トン掛けるの280日というところでの最初の想定がありまして、それについて大体、答えなんですけども、約1000トンほど、すいません、余力があるかなというところでの、今。ただ、年々ですね、焼却のごみの量、今回コロナがありました。コロナがあったものですから、事業のごみについてが、かなり通常よりも、昨年度と比較してなんですけども減っております。その代わり、一般の市民から出ましたごみのほうが少し増加しているということもありまして、今年度の量からいきますと約1000トンぐらい、すいません、資料を今こちらのほうに持ってきてないものですから、1000トンほど計画量よりも余力があるかなというところでの認識をしているところでございます。

以上、お答えとさせていただきます。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） この程度にとどめておきますので、きちんとまとめていただいて報告をですね、お願いしたいというふうに思います。

先ほど坂口課長のほうからですか、生ごみの量33.9%という数字がありましたけれども、以前の調査と比較してどんな傾向になってますかね。過去にも調査はされてたと思うんですけど。

○循環社会推進課長（坂口初美君） お答えします。

すいません、今日、対前年比としてしかお持ちしてきておりませんが、生ごみに関しましては、前年が32.3%でしたので、今回1.6%ほどの増ということでもあります。

食品ロスということで食べ残し分についての調査をしておりますが、これは前年11.7%から7.9%ということで、これは少し減っております。

おむつが、前年7.5%が10.7%ということで少し増えておりますが、これには少しペットのおむつあたりも含まれているというようなことが特徴的になっているという調査のときの説明がございました。

あとは、その他に含まれておりましたごみの量に関しましては、前年が31%から今年が25.9%ということで、全体、昨年82.5%だった燃えるごみの量、本年は78.4%という数字となっております。

以上でございます。

○委員長（増田一喜君） できるだけ予算のことに関して質問していただきたいと思います。

○委員（大倉裕一君） この点がですね、予算に関係してくつとですよ。この焼却炉という部分をですね、延命化させるに当たっては。ですので、後で意見で申し上げようと思いましたが、ここで申し上げますが、今のデータをきちんと分析、評価していただいて、生ごみ

の減量化については微増になっていると。その取組がこれまでどうだったのか、今年度どうするのかというところはしっかり取り組んでいただきたいというふうに思います。

一方では、食品ロスですね、そこについては効果が得られていますので、その取組がやはり市民に対して理解があったんだろうと。そういったところをまた今後の施策に引き続き取り組んでいただきたいというふうに思います。

○委員長（増田一喜君） ただいまのは意見ですね。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（福嶋安徳君） 1つお伺いします。

82ページの千丁のほうからの訴訟関係なんですけど、この廃棄物の収集運搬業務の中で訴訟関係であったんですが、これは、令和元年あたりに済んだように記憶してるんですが、まだ何かの継続的なやつが何かあつとですかね。

○委員長（増田一喜君） どなたが答えますか。

○循環社会推進課長（坂口初美君） 訴訟関係についてお答えします。

本件の訴訟については、4件訴訟が上がっておりまして、今申し上げたのは最後に残ってる4本目のものでございます。

以前の3件については、もう判決が出てるんですけども、今ここにお示ししました分の訴訟につきましては、今も熊本地裁のほうで継続中でございます。来年度も継続するかとは思いますが、今、淡々と、弁護士の先生あたりと御相談しまして訴訟対応をしているという状況でございます。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（福嶋安徳君） はい、分かりました。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 国のほうでは脱炭素社会の取組を進めていくような話になっておりますが、八代市としてはこれからのところもある

のかなというふうには思ってるんですが、もし令和3年度で取組を検討されている部分がありましたら、その点をお話しいただければと思います。

○理事兼環境課長（武宮 学君） 環境課の武宮でございます。

今、大倉委員から脱炭素というようなお話がございました。脱炭素につきましては、2050年までに実質排出量をゼロにするというような菅総理の表明がございました。

全国でも、国内のいろんな自治体で同じような表明をしたところがございますが、正直言いまして、脱炭素に特化した事業というのは来年度実施する予定は特段ございません。

ただ、第2次八代市環境基本計画、平成31年2月に策定をいたしました。その中の地球温暖化対策に、いろんな取り組むべき事項を掲げております。市としましては、その計画に盛り込んだ内容をですね、八代市民、事業者、それと環境活動団体、各主体一体となって進めてまいりたいというふうにご考えているところでございます。

以上、お答えとさせていただきます。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○環境センター管理課長（稲本健一君） すいません。先ほどお答えさせていただきました運営の日にちの話で、先ほど、環境センターが180日というところでお答えさせていただいたんですけども、すいません、280日でございます。

それと、昨年度の令和元年度で先ほど計算したんですけども、1日当たり、280日で令和元年度で試算しますと124トン焼却しております。ですから、134トンがマックスになっておりますので、約10トンほど1日当たり余力があるというお答えにさせていただきたいと思います。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） 以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。

○委員（大倉裕一君） 斎場の家族の入室ですね。コロナ対策という点になるんですけども、こちらに対して、親族が5名しか行けないというのは非常に切ないというかですね、最後の骨を拾うとき、そこに立ち会えないというのは無念でならんというお声を聞いております。できるだけ納得いける、家族・親族の方が行けるようなですね、数を確保していただければというふうに思っておりますので、その点、御検討をお願いできればと思います。

それから、同じく環境センターの見学についてもですけども、こちらもコロナの関係で今、当面の間見送りというようなことになってるかと思いますが、こちらのほうもできるだけ、コロナのほう落ち着いてからという形にはなるかもしれませんが、見学の再開について御検討のほうを進めていただくようお願いをしておきたいというふうに思います。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

以上で第4款・衛生費についてを終了します。
執行部入れ替わりのため、小会いたします。

（午前11時42分 小会）

（午前11時44分 本会）

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、第7款・土木費及び第10款・災害復旧費について、建設部から説明願います。

○建設部長（潮崎 勝君） 建設部、潮崎です。

令和3年度当初予算の説明に当たり、建設部が所管いたします一般会計、特別会計、企業会

計について、総括を述べさせていただきます。

着座にて説明させていただきます。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○建設部長（潮崎 勝君） 本市では、第2次八代市総合計画で掲げる「しあわせあふれるひと・もの 交流拠点都市“やつしろ”」の実現に向け、特に重点的に取り組む6つの戦略を進めておりますが、建設部では、安全・安心で魅力ある都市を築くという戦略推進のため、主に社会基盤整備に力を入れた施策に取り組んでいるところでございます。さらに、令和2年3月に策定された八代市国土強靱化地域計画の推進に向けても、力を入れていく必要がございます。加えて、令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた坂本町の復旧・復興に向け、全力で取り組んでいく覚悟でございます。

それではまず、一般会計当初予算の規模について御説明します。

款7・土木費では、49億4993万1000円を計上いたしております。前年度当初予算に比べ、2億4443万7000円、率にして5.2%の増額でございます。

なお、先ほど御審議いただいた令和2年度一般会計補正予算・第16号中の国の3次補正に伴う前倒し分5億5780万9000円を加えますと、総額55億774万円となります。前年度の当初予算と前倒し分の合計総額50億6221万3000円と比較いたしますと、実質4億4552万7000円、率として8.8%の増額となっております。

また、令和2年度の款10・災害復旧費のうち、建設部所管の項2・公共土木施設災害復旧費の繰越明許費として、49億4713万2000円の限度額を設定しております。

続いて、令和3年度における主な施策の取組につきまして、5点御紹介いたします。

まず1点目、災害復旧への取組でございます。

令和3年度におきましては、今年度発注でき

なかった道路40件、橋梁2件、河川9件、合計約16億700万円の工事発注を予定しております。

また、宅地内に堆積した土砂や流木を除去する堆積土砂排除事業につきましては、令和2年度に4億8120万9000円を執行しておりますが、公費解体待ちで施行できなかった案件について引き続き施行するものであり、令和3年度では、収集・運搬・分別作業と各家屋に堆積した土砂を撤去する直接排除は約40件で、合計約1億4000万円を見込んでおります。

次に2点目、幹線道路ネットワークの形成に向けた道路整備への取組でございます。

街路事業として実施している西片西宮線の2工区では、工事費、用地補償費、埋蔵文化財調査費等、当初予算116万1000円、3月補正予算9493万4000円の計9609万5000円を計上しております。

また、県事業への負担金となりますが、南部幹線では、用地取得及び移転補償並びに道路工事等に要する事業費の10%、6570万円を予定しております。

道路事業として実施している東西アクセス道路整備は、川田町東の国道3号から千丁町古閑出の県道共栄千丁停車場線へ通じる延長約4.2キロメートルの道路で、東側国道3号から市道竜西東西12号線、県道新八代停車場線、市道新牟田西牟田線の3路線を整備するものでございます。県道と市道新牟田西牟田線は既に工事に着手しており、市道竜西東西12号線については、令和2年度に沿線住民への事業説明を完了し用地買収に着手いたしました。令和3年度におきましても、3路線の早期完了を目指し整備を進めてまいります。

次に3点目、地域生活に密着した道路整備への取組でございます。

主に地域要望に応える事業である市内一円道路改良事業に、当初予算と3月補正予算合わせ

て約8億8800万円、道路維持事業に当初予算と3月補正予算合わせて約4億300万円、交通安全施設整備事業に当初予算と3月補正予算合わせて6500万円をそれぞれ計上し、地域要望への対応を含め、道路施設の新設改良や適切な維持管理等に努めてまいります。

次に4点目、良好な住環境の整備に向けた取組でございます。

民間住宅関連の施策として、本年度に引き続き、老朽危険空き家等除却、危険ブロック塀等除却促進、民間建築物耐震化促進、アスベスト調査分析等の助成制度を実施するとともに、空き家バンク事業では空き家の有効利用の促進に向けた対策を展開してまいります。

なお、空き家等対策につきましては、新たに協議会を設け、特定空家等の判定などに尽力するとともに、適正な住宅管理の指導に努めてまいります。

また、各地域の持つ豊かな景観の保全と形成を目的とした八代市景観計画は、令和2年4月から運用を開始しており、この計画に基づき、景観重点地区指定などの施策を総合的かつ計画的に推進することで、良好な住環境整備への後押しを行ってまいります。

最後に5点目、公共水域の水質保全に向けた取組でございます。

水質保全として欠かすことのできない生活雑排水の処理については、特別会計の農業集落排水処理施設事業で9370万9000円、同じく公共浄化槽等整備推進事業で5081万8000円の予算計上でございます。

また、企業会計である下水道事業では、59億2388万円の予算計上を行っております。なお、一般会計同様に、令和2年度下水道事業会計補正予算・第3号で国の3次補正に伴う前倒し分を加えますと、65億7688万円となります。

これらの事業では、接続率を高め収納率を向

上させる対策と維持管理費の削減が経営改善への重点課題と認識しており、来年度もさらなる経営の安定化に努めてまいります。

また、市街地の浸水被害の軽減を目的に整備を行っている北部中央雨水調整池整備工事は、本年6月末の供用開始を目指して、工事の最終段階を迎えております。

中央ポンプ場改築工事におきましては、4期目のナンバー2エンジンポンプの更新を含め、これまで更新しました4基のポンプと合わせ全てのポンプが完了することになり、市街地の浸水被害軽減につながるものと考えております。

終わりになりますが、令和3年度におきましても、坂本町の復旧・復興と安全・安心で魅力ある都市を築くために、建設部職員一丸となって、さらなるコスト縮減と国の補助事業など有利な財源確保に努めながら、各施策や各事務事業のさらなる推進を図ってまいります。

以上で、令和3年度当初予算の説明に先立つ建設部長としての総括といたします。

引き続き、一般会計当初予算の内容については西次長に、特別会計、企業会計については担当課長にそれぞれ説明いたさせていただきますので、よろしく願いいたします。

なお、本日は総務委員会も同時に開催されております。新庁舎建設関係の対応のため途中で退席する場合がございますが、御容赦のほどお願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、午前中の審議はこの程度にいたしまして、しばらく休憩いたしたいと思います。

（午前11時55分 休憩）

（午後1時00分 開議）

○委員長（増田一喜君） それでは、休憩前に引き続き、建設環境委員会を再開いたします。

西建設部次長。

○建設部次長（西 竜一君） 皆さんこんにちは

は。建設部次長の西でございます。よろしくお願ひします。恐れ入りますが、着座にて説明させていただきます。よろしいでしょうか。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○建設部次長（西 竜一君） 失礼します。

それでは、令和3年度八代市一般会計予算書をお願いします。

7ページをお開きください。

下のほうになります。第1表歳入歳出予算中、款7・土木費の歳出分では、49億4993万1000円を計上しております。前年度対比2億4443万7000円、5.2%の増でございます。

なお、繰り返しにはなりますが、部長総括でありましたように、先ほど審議していただきました、令和2年度八代市一般会計補正予算・第16号中の国の3次補正に伴います前倒し分5億5780万9000円を加えますと、総額55億774万円となり、昨年度の当初分と前倒し分の合計総額50億6221万3000円と比較しますと、実質4億4552万7000円、率にして8.8%の増額予算となっております。

それでは、表の中で説明します。

項1・土木管理費では3億7458万7000円を計上しております。前年度対比8394万5000円、28.9%の増でございます。これは、職員給与経費など建築総務費の増が主な要因でございます。

項2・土木橋梁費では17億2278万8000円を計上しております。前年度対比1億1371万1000円、7.1%の増でございます。これは、橋梁長寿命化修繕事業の増が主な要因でございます。

8ページをお願いいたします。

項3・河川費では7646万2000円を計上しております。対前年度比940万6000円、11%の減でございます。これは、県河川海岸事業の事業費減に伴います負担金減が主な

要因でございます。

項4・港湾費では3億124万9000円を計上しております。前年度比4830万2000円、19.1%の増でございます。これは、八代港県営事業の事業費増に伴います負担金増が主な要因でございます。

項5・都市計画費では21億5355万4000円を計上しております。対前年度比1億5296万4000円、6.6%の減でございます。これは、国の令和2年度3次補正による西片西宮線道路整備事業の前倒し及び八千把地区土地区画整理事業の予算減が主な要因でございます。

項6・住宅費では3億2129万1000円を計上しております。対前年比1億6084万9000円、100.3%の増でございます。これは、市営築添団地の給水設備改修や、市営郷開団地の屋上防水、外壁改修に伴います工事請負費の増が主な要因でございます。

飛びまして、95ページをお開きください。

それでは続きまして、目ごとの事業とその内容について説明いたします。説明につきましては、まず、一番左の予算計上額、次に、一番右の説明欄の事業の説明をしまして、節の内訳の中で主なものについて御説明いたします。

なお、各目の節2・給料から節4・共済費までは職員の人件費でございますので、説明は省略させていただきます。

それでは、項1・土木管理費、目1・土木総務費では5273万8000円を計上しております。

説明欄の公共用地取得・登記事務事業471万4000円は、登記事務に従事する会計年度任用職員2名分の人件費などに要する費用でございます。

目2・建築総務費では3億2184万9000円を計上しております。

説明欄の建築行政事業269万1000円は、

特殊建築物定期報告業務委託や、年3回開催予定の建築審査会などに要する費用でございます。

老朽危険空き家等除却促進事業3600万円は、老朽化した危険な状態で放置されている空き家の除却費用の一部を補助する費用60件分でございます。

民間建築物耐震化促進事業2099万5000円は、民間建築物の耐震化を促進するため、戸建住宅耐震改修設計や改修工事などを行う費用の一部を補助する費用20件分でございます。

公共建築物営繕事業2249万4000円は、市民が安心して施設を利用できるように、市有建築物や設備の定期点検に要する費用でございます。

空き家バンク事業431万6000円は、空き家バンク登録物件の利活用を促進するため、売買や賃貸契約が成立した場合、残置された家財道具の撤去、リフォームなどの一部を補助する費用などでございます。

アスベスト調査分析事業100万円は、民間の既存建築物に施工されている吹きつけアスベストなどについて、専門業者による含有調査費用の一部を補助する費用4件分でございます。

危険ブロック塀等除却促進事業240万円は、ブロック塀等の倒壊による人身事故の防止及び避難経路の確保のため、危険なブロック塀の除却費用の一部を補助する費用12件分でございます。

空き家等対策事業1420万1000円は、空き家の実態把握業務などに要する費用でございます。

節12・委託料1802万3000円は、空き家実態把握業務委託や、戸建木造住宅耐震診断士派遣業務委託などに要する費用でございます。

節18・負担金補助及び交付金6191万6000円は、老朽危険空き家等除却促進事業など、各種の補助メニューに係る補助金でござい

ます。

次の96ページをお願いいたします。

項2・道路橋梁費、目1・道路橋梁総務費では1億8671万3000円を計上しております。

説明欄の道路橋梁総務一般事務事業3685万2000円は、市道の管理全般に要する費用でございます。

節12・委託料3378万9000円は、道路台帳の作成及び修正などの業務委託に要する費用でございます。

目2・道路維持費では3億9913万1000円を計上しております。

説明欄の交通安全施設整備事業5973万円は、カーブミラー、ガードレール及び街路灯や区画線など、市道の交通安全施設の設置及び補修に要する費用でございます。

道路維持事業3億2287万4000円は、道路の側溝や舗装の修繕など、維持管理に要する費用でございます。

節10・需用費7510万7000円は、市内一円の道路側溝や舗装、交通安全施設などの修繕や街路灯などの電気代に要する費用でございます。

節11・役務費596万2000円は、道路側溝のしゅんせつや地下道の点検、清掃の手数料に要する費用でございます。

節12・委託料6897万円は、緑の回廊線や幹線市道の街路樹の管理業務委託及び道路パトロール業務委託、新八代駅関連施設管理委託などに要する費用でございます。

節14・工事請負費2億2904万4000円は、ガードレールなどの交通安全施設設置工事や、中央線など33路線、約5キロメートルの舗装補修工事などに要する費用でございます。

節15・原材料費1700万円は、地元施工による生コン舗装の材料や、路面の補修用簡易アスファルト合材、カーブミラーなどの安全施

設の部材購入に要する費用でございます。

97ページを御覧ください。

目3・道路新設改良費では9億186万2000円を計上しております。

説明欄の単県道路事業負担金事業1080万円は、県道氷川八代線など4路線の改良工事や側溝整備など、同事業に係ります負担金でございます。

市内一円道路改良事業7億320万円は、市民生活に密着した市道の交通環境改善を図ることを目的として、計画的な拡幅改良やバリアフリー化などの推進に要する費用でございます。

節12・委託料2900万円及び節14・工事請負費6億5080万円は、社会資本整備総合交付金事業や市単独事業で取り組みます市道整備に必要な測量設計などの業務委託や工事に要する費用でございます。

節16・公有財産購入費1440万円及び節21・補償、補填及び賠償金420万円は、道路整備に伴う用地購入、建物や立木補償及び工事に支障となる電柱移転補償などに要する費用でございます。

1つ戻っていただきまして、節18・負担金補助及び交付金1080万円は、単県道路事業負担金事業に係る負担金でございます。

目4・橋梁維持費では1億8698万2000円を計上しております。

説明欄の市内一円橋梁維持管理事業98万2000円は、橋梁の維持・管理に要する費用でございます。

橋梁長寿命化修繕事業1億8600万円は、市道に架かる橋梁の定期点検及び橋梁架け替えに要する費用でございます。

節10・需用費98万2000円は、橋梁照明灯の電気料でございます。

節12・委託料1億5600万円は、393橋の橋梁定期点検業務委託及び西片町5号橋ほか19橋の補修設計業務委託に要する費用でござ

います。

節14・工事請負費3000万円は、二見の下大野川2号橋の架け替え工事に要する費用でございます。

目5・橋梁新設改良費では4810万円を計上しております。

説明欄の市内一円橋梁改修事業は、幅が狭く通りづらい橋梁などの改修工事を行うものでございます。

節14・工事請負費4210万円は、郡築南北5号線橋梁ほか3橋の橋梁改修に要する費用でございます。

節21・補償、補填及び賠償金600万円は、宮地町11号橋改修工事に伴う支障となる電柱や水道管の移転補償に要する費用でございます。

98ページをお願いします。

項3・河川費、目1・河川費では7646万2000円を計上しております。

説明欄の二見川渇水対策施設維持管理事業191万8000円は、南九州西回り自動車道赤松トンネル建設時に発生した二見川の渇水対策として、揚水ポンプの運転経費及び施設の管理に要する費用でございます。

県河川海岸事業負担金事業1111万5000円は、坂本町の大門瀬など4か所での急傾斜地崩壊対策や、明治新田海岸及び野崎海岸の海岸堤防等老朽化対策緊急事業に係る負担金でございます。

市内一円河川改修事業5742万9000円は、河川改修に要する費用でございます。

土砂災害危険住宅移転促進事業600万円は、土砂災害特別警戒区域内に、いわゆるレッドゾーンですが、に居住する方の安全な地域への移転を促進するため、移転を行うものに対して、その費用の一部を補助する費用でございます。

節10・需用費594万1000円は、河川護岸等の修繕料や、二見川渇水対策用のポンプ等の電気料に要する費用でございます。

節12・委託料2317万2000円は、河川の除草や清掃委託、改修工事の測量設計委託に要する費用でございます。

節14・工事請負費2950万円は、日奈久大坪町の大坪川ほか7河川の改修工事に要する費用でございます。

節18・負担金補助及び交付金1753万9000円は、県河川海岸事業負担金及び土砂災害危険住宅移転促進事業の補助金が主なものでございます。

下段の項4・港湾費、目1・港湾管理費では595万4000円を計上しております。

説明欄の港湾管理事業459万円は、市が管理します日奈久港及び鏡港の港湾施設等の維持管理に要する費用でございます。

八代港振興事業136万4000円は、同事業に係る負担金でございます。

節10・需用費158万円は、日奈久港と鏡港の夜間照明灯の電気料や浮き栈橋の修繕料などに要する費用でございます。

節12・委託料285万8000円は、日奈久港の航路標識の設置や、高潮時のポンプによる排水対策に要する費用でございます。

節18・負担金補助及び交付金136万4000円は、八代港振興事業に係る熊本県港湾協会、海上保安協会、日本港湾協会、港湾都市協議会への負担金でございます。

99ページをお願いいたします。

目2・港湾建設費では、2億9529万5000円を計上しております。

説明欄の八代港県営事業負担金事業2億800万円は、重要港湾と国際旅客船拠点形成港湾の指定を受けております八代港の国直轄事業や県営事業に係る負担金でございます。

港湾施設改修事業6475万円は、鏡港の泊地しゅんせつや、維持管理計画策定業務などに要する費用でございます。

節12・委託料1109万4000円は、鏡

港の維持管理計画策定業務委託に要する費用でございます。

節14・工事請負費5365万6000円は、鏡港の泊地しゅんせつ工事及び日奈久港の灯浮標設置工事や、海岸フラップゲート補修工事に要する費用が主なものでございます。

節18・負担金補助及び交付金2億800万円は、八代港県営事業負担金事業に係る負担金でございます。

下段の項5・都市計画費、目1・都市計画総務費では16億1883万7000円を計上しております。

次ページの説明欄に記載の被災宅地復旧支援事業2010万円は、熊本地震で被災しました宅地の復旧工事費の一部を支援する費用でございます。

同様に、被災私道復旧支援事業300万円は、熊本地震により被災しました私道の復旧工事費の一部を支援するものでございます。

景観形成支援事業61万6000円は、八代市景観条例及び八代市景観計画に基づき、良好な景観形成に対する支援を行うものでございまして、景観届出制度周知用冊子作成や、景観シンポジウム開催などに要する費用でございます。

また、下水道事業会計へ支出しております企業会計繰出金事業に14億8450万円を計上しております。

節12・委託料525万1000円は、都市計画地形図修正業務委託や都市計画地図印刷システム更新業務委託に要する費用でございます。

節13・使用料及び賃借料400万5000円は、土木積算システムのリース代などに要する費用でございます。

節17・備品購入費336万8000円は、公用車の購入などに要する費用でございます。

節18・負担金補助及び交付金2406万4000円は、地震災害関連として、被災した宅地の復旧や私道の復旧に要する補助金が主なも

のでございます。

節27・繰出金14億8450万円は、企業会計であります下水道事業への繰出金でございます。前年度比3400万円の減となっております。詳細につきましては、後ほど説明します下水道事業会計で説明をさせていただきます。

続きまして、目2・街路事業費では1億1599万3000円を計上しております。

説明欄の南部幹線道路整備事業6570万円は、前川を挟む県施工区間の用地買収や、建物等移転補償及び道路改良工事など、同事業に係ります負担金でございます。

西片西宮線道路整備事業では116万1000円を計上しております。本事業は、1工区完成後、平成29年度より2工区に着手しておりますが、令和3年度は、令和2年度の国の3次補正予算と合わせまして、用地取得、埋蔵文化財調査及び一部工事を予定しております。

節14・工事請負費100万円は、西片西宮線2工区の工事に要する費用でございます。

節18・負担金補助及び交付金6573万8000円は、南部幹線県事業負担金が主なものでございまして、負担率は10%でございます。

なお、南部幹線につきましては、先日、県より情報提供がありまして、令和2年度、今年度ですが、その予算を流用しまして工事費を確保され、繰越工事とはなりますが早期の工事着手に取り組まれるとのこととございました。

101ページをお願いします。

目3・都市下水路費では8383万7000円を計上しております。

説明欄の雨水ポンプ場維持管理事業434万1000円及び都市下水路維持管理事業369万8000円は、日奈久浜町ポンプ場や宮地都市下水路などにおける維持管理に要する費用でございます。

樋門樋管操作管理事業876万9000円は、球磨川流域の堤防に設置されております樋門な

ど44施設の管理委託に要する費用でございます。

市内一円都市下水路事業6237万2000円は、用途区域内の排水路の改良及び維持管理に要する費用でございます。

節7・報償費702万7000円は、球磨川流域に設置された樋門・樋管44施設の操作員への報酬でございます。

節10・需用費1397万5000円は、市内一円の都市下水路の修繕及び堆積土砂のしゅんせつや、日奈久浜町と徳淵にあるポンプ場の燃料や光熱費などに要する費用でございます。

節11・役務費108万2000円は、地元施工でしゅんせつされた土砂の運搬料や、樋門操作管理人に掛ける傷害保険料が主なものでございます。

節12・委託料625万6000円と節14・工事請負費5069万円は、築添町排水路改良工事ほか10か所の工事や測量設計業務委託に要する費用でございます。

目4・公園費では2億2777万6000円を計上しております。

説明欄の市内一円公園維持管理事業1億245万2000円は、市内100公園の施設修繕や管理業務委託、樹木管理委託などに要する費用でございます。

市内一円公園施設整備事業2800万円は、球磨川河川緑地及び川の交流広場の舗装補修や、坂本町のくま川ワイワイパーク大型遊具改修など6公園の施設改修及び北部中央公園ほか9公園の遊具設置に要する費用でございます。

公園施設長寿命化支援事業4300万円は、会地公園ほか3公園の遊具改築及び公園施設長寿命化計画策定業務に要する費用でございます。

都市公園安全・安心対策緊急支援事業2400万円は、内膳児童公園ほか2公園のトイレや園路のバリアフリー化及び高島公園ののり面崩壊対策測量設計業務に要する費用でございます。

節10・需用費1732万円は、施設修繕や電気料、下水道使用料などが主なものでございます。

節11・役務費334万4000円は、公園管理手数料やトイレのくみ取りに要する費用でございます。

節12・委託料9813万9000円は、公園の樹木管理や清掃業務委託に要する費用が主なものでございます。

節13・使用料及び賃借料1000万9000円は、球磨川スポーツ公園などの簡易トイレ賃借料や、八代城跡公園などの土地使用料でございます。

節14・工事請負費6800万円は、公園施設整備工事や長寿命化対策工事に要する費用でございます。

102ページをお願いします。

目5・区画整理費では1億711万1000円を計上しております。

説明欄の八千把地区土地区画整理保留地販売促進事業は、民間の不動産業者の力を借りて保留地の販売を促進するもので、41万4000円を計上しております。

八千把地区土地区画整理事業基金事業は、保留地売払収入及び利子分を同基金に積み立てるもので、令和3年度は1053万円を見込んでおります。

八千把地区土地区画整理事業5903万円は、区画の整地や区画道路の築造及び舗装、また、電柱移設、工作物補償などに要する費用でございます。

節7・報償費41万4000円は、保留地販売促進手数料1件分でございます。

節10・需用費306万円は、道路の修繕料、消耗品及び公用車のガソリン代などが主なものでございます。

節12・委託料1218万円は、画地測量や補償費算定業務委託などに要する費用ござい

ます。

節14・工事請負費3930万円は、整地工事や区画道路の築造及び舗装工事に要する費用でございます。

節21・補償、補填及び賠償金720万円は、電柱移設補償や工作物補償などの費用でございます。

節24・積立金1053万円は、事業基金への積立金でございます。

なお、八千把地区土地区画整理事業につきましては、現在、平成12年度から令和4年度までの事業期間としておりましたが、保留地処分が進まなかったことに伴います工事進捗の遅れなどによりまして、事業期間を令和10年度まで延伸する予定でございます。現在、熊本県と協議を行っているところでございます。

103ページをお願いいたします。

項6・住宅費、目1・住宅管理費では3億2127万2000円を計上しております。

説明欄の公営住宅管理事業6347万5000円は、老朽箇所の修繕、並びに給排水設備や浄化槽設備などの保守点検に要する費用でございます。

公営住宅ストック総合改善事業2億220万7000円は、築添団地の給水設備改修や、郷開団地の屋上防水及び外壁改修に要する費用でございます。

公営住宅施設整備事業1369万5000円は、政策空き家解体や新町団地電気温水器取替え、また、入居から長期間を経過した入居者の畳替えなどに要する費用でございます。

節10・需用費3599万円は、市営住宅の修繕料が主なものでございます。

節11・役務費350万6000円は、団地内の除草や植木剪定などの手数料が主なものでございます。

節12・委託料2457万3000円は、市営住宅の各種設備の保守点検などに要する費用

でございます。

節14・工事請負費2億660万7000円は、築添団地の給水設備改修工事や、郷開団地の屋上防水及び外壁改修工事、また、政策空き家解体工事などに要する費用でございます。

節17・備品購入費311万6000円は、新町団地の電気温水器購入に要する費用が主なものでございます。

目2・住宅用地造成費では1万9000円を計上しております。

説明欄の宅地分譲貸付事業は、定住促進のために造成しました宅地分譲地の販売及び貸付けを行うものでございます。

続きまして、配付しております資料の説明をさせていただきます。

お手元に別添で2つ資料があるかと思えます。右肩に黒枠で、建設環境委員会資料と記載しております議案第5号・令和3年度八代市一般会計予算（建設部所管分）が1つでございます。

それともう1つ、同じく右肩に建設環境委員会資料と書いてありますが、令和3年度地域要望への対応、建設部所管分という2つの資料を別添資料としてお配りさせていただいております。ちょっと厚めの位置図とか一覧表が載っている資料ですね。議案第5号の分ということで。よろしいでしょうか。

最初に、令和3年度八代市一般会計予算、建設部所管分について説明いたします。簡単に説明させていただきます。

この資料は、市内一円で実施しています各事業の詳細をお示しするものでございます。

表紙をめくっていただきまして、裏に目次をつけております。

1ページが交通安全施設整備事業の予定表、2ページから7ページまでがその箇所図でございます。同様に、13番まで書いておりますが、各事業の予定表及び箇所図を添付いたしております。

なお、詳細については説明を割愛させていただきたいと思えます。

次に、もう1つの資料、令和3年度地域要望への対応、建設部所管分について説明いたします。

後ほどじっくり御覧いただければと思うんですが、こちらの資料は、令和2年度に各地域協議会から建設部に寄せられました要望1017件のうち、令和3年度までに各課が対応する197か所を取りまとめた資料でございます。後ほど御覧になっていただければと思えます。

以上で資料の説明を、簡単でございますが終わらせていただきます。

最後に、款10・災害復旧費の建設部所管分について説明します。もう一度予算書のほうにお戻りいただきたいと思えます。

121ページをお開きください。

ページ下段の款10・災害復旧費、項2・公共土木施設災害復旧費、目1・道路橋梁施設災害復旧費では832万7000円を計上しております。

説明欄の道路橋梁施設災害復旧事業では、令和元年7月の梅雨前線豪雨により、斜面が崩壊しました泉管内の市道腰越～平線の災害復旧を行うものでございます。

節12・委託料832万7000円は、調査及び測量設計業務委託に要する費用でございます。

なお、この腰越～平線についてはですね、後ほど所管事務調査で現在の状況等については詳しく説明をさせていただきたいと思えます。

以上をもちまして、款7・土木費、款10・災害復旧費の建設部関係の説明とさせていただきます。御審議のほどよろしくお願いたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（橋本隆一君） 101ページの公園費

について、ちょっと確認で申し訳ないんですけども、市内一円公園維持管理事業、それから、市内一円公園施設整備事業、公園施設長寿命化対策支援事業で、公園の整備事業ちゅうのは大体、地域の住民自治あたりでですね、そういうトイレとか、あるいは草取りとかされているところが多いと思うんですけど、そういったところにこのお金ちゅうのは使われるという意味で捉えていいんですか。それとも別の事業で使われるんですか。

○都市整備課長（一美晋策君） こんにちは。
（「こんにちは」と呼ぶ者あり）都市整備課、一美です。

ただいま御質問がありました公園の維持管理事業の事業費につきましては、今おっしゃいましたように、主立って公園の維持管理を町内の愛護会等々をお願いしてるものですから、そちらに対する愛護会の維持管理費並びにですね、遊具等が修理が必要になったりとか、そういうこともありますので、それと工事請負費、修繕費等々を予定させていただいているところでございます。

○委員（橋本隆一君） はい、ありがとうございますでした。

またお尋ねで申し訳ないんですけど、愛護会員のほうでですね、高齢でなかなか自分たちが手に負えないので、どぎゃんすんならよかとだろかちゅう声をよく聞くんですけど、そういった御要望ちゅうのは市のほうでは受けておられますですか。

○都市整備課長（一美晋策君） その件につきましてはですね、昨年一般質問でもございまして、うちのほうでもですね、10月に愛護会のほうに、これは旧市内の愛護会のほうにアンケート調査をさせていただきました。

主な内容につきましてはですね、作業内容については、難しいか簡単か適当か、あるいは作業量、会員数、委託料、5年後の高齢化という

ようなお話もあったんで、5年後の維持管理は可能かというようなことで、5項目についてアンケート調査をさせていただいております。

今、委員のほうから御質問がありました、高齢化が進んで5年後は愛護会での作業は可能かというような御質問に対してはですね、42愛護会の回答に対してですね、難しいであろうということが13か所、可能であるというのが9か所、分からないというのが20か所ということで回答をいただいているところでございます。

以上、回答といたします。

○委員（橋本隆一君） ありがとうございます。対応に関してはですね、今後また違う形で質問させていただきます。すいません、状況は分かりました。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 民間建築物耐震化促進事業のことでお尋ねしたいんですけども、これの財源を見ると、国とか県のほうからの支出金が多くを占めているわけですが、この事業を取り組むに至った経緯と、件数をですね、予算の概要のほうではお示しいただいているんですけども、その辺りどういったところからこの件数を引っ張ってこられたのかというところをお聞かせいただけますか。

○首席審議員兼建築指導課長（宮端晋也君）

建築指導課、宮端でございます。よろしくお願ひいたします。

まず、経緯ということでお尋ねございました。耐震化の、市でやっております事業、補助の事業でございますけども、平成20年度から開始をしております、平成20年度は耐震診断を補助するというものだけやっておりましたが、その後、耐震の改修工事についての補助を行うというのが平成25年度からしております。

それから、平成29年度になりましてから、耐震に伴う建て替え工事ですとか、耐震シェル

ター工事などのメニューを追加しております。

耐震診断につきましては、平成29年度から令和2年度まで、県のほうで耐震診断の補助をされるということで、市のほうではやっておりませんでした。ですが、県のほうが令和2年度で終わられるということで、令和3年度は耐震診断のほうも予定をさせていただいているところです。

件数につきましてはですが、令和3年度の予定としましては、耐震建て替え工事のほうが9件、耐震改修設計一括のほうが8件という予定をさせていただいておりますけれども、これは、これまでの各年度の申請の状況等を見て、件数の想定させていただいております。

以上でございます。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 交通安全施設整備事業で、街路灯をLED化されるように概要のほうでお示しいただいているんですけども、具体的に、この街路灯LED化というのはどこをされるのかというのを教えていただければと思います。

○土木課長（小原聖児君） お答えいたします。

まず、場所は八代緑の回廊線ということで、松崎町の火葬場のほうから県道八代鏡線のほうの、九州ガスさんがございますけれども、そちらのほうに向かって、一応予算的には1000万円ということですのでしておりますが、その中で80本程度は可能じゃなかろうかというところで、今それを予定しているところでございます。

全体数で申し上げますと、街路灯、街灯ということになりますと550本程度が確認できているという現況でございます。それを計画としては5年間でLED化に進めてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（福嶋安徳君） 96ページになります。交通安全施設整備事業の中で、カーブミラーの設置事業があつとですけども、これは各支所の管轄で予算計上というのもあつてませんか。

○土木課長（小原聖児君） お答えいたします。

一括で予算要求はしております。後から配分ということで、取扱いのほうは各支所対応になっております。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 公営住宅ストック総合改善事業と、公営住宅施設整備事業、もう両方併せてお尋ねをします。

築添団地の給水設備改修、それから郷開団地の防水工事、これは実際に傷んでいるということでしょうか。例えば郷開団地の防水であれば、もう雨漏りが始まっているから対策を取りますということなのか、予防という形で取っていくのかという点と、公営住宅施設整備事業のほうでは、市営住宅の畳の取替え修繕ということで上がっておりますけれども、こちらのほうは政策的に取替えをされるのか。もしくは、転居の後の対策として畳の入替えをすると、張り替えをするというようなことなのか。その辺りをお聞かせいただきたいと思っております。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）住宅課、下村です。

委員お尋ねの、まず築添団地の給水施設でございますけれども、この施設は昭和51年から55年にかけて整備されております。

今回（聴取不能）熊本地震を経験いたしましたですね、特になかったんですけども、非常に高い位置に、高い施設でございます。今後危険でもあるということで全面的な改修工事を行うということになっております。

郷開団地に関しましてはですね、これは委員おっしゃいましたとおり予防的措置というところ

るので、今回、長寿命化計画に沿ってするという
こととなっております。

それと、市営住宅の畳の取替え修繕につきま
しては、これも委員おっしゃいますとおり、政
策的なことということで取替えと。今回、対象
戸数は21戸予定しております。

以上です。

○委員（大倉裕一君） ありがとうございます。

すいません。築添団地の給水設備の件だけち
よっと再質問という形になつとですけど、給水
装置は高いとおっしゃったんですけど、屋上に
多分設置されているんですけども、その屋上の
位置でさらに高い設備という形になっていると
いう理解でいいんでしょうか。その辺りを詳しく
教えてください。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 先ほど申し
上げました高いところというのはですね、別棟
に建てられてまして、今回それを取り除いてで
すね、地面に置くタイプとして、ポンプで吸い
上げると。各住戸に送り出すというような方式、
簡単に言えばですね、ということになります。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） ありがとうございます。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） すいません。地域要望
に対する対策を資料としておつけいただいでお
ります。197ぐらいだったですかね、3年度
の要望を対応していただくということで、地域
としては非常にありがたいと思われる反面、ま
あ197件に収まってしまったのかというよう
な思いを持たれる方と、両面あるのかなという
ふうに思うんですけども、3年度の予算として
は、これ全体197件でお幾らぐらいの予算を
確保されたのかということをお聞かせいただけ
ますか。

○委員長（増田一喜君） どなたが答えますか。

○建設部次長（西 竜一君） ちょっとお時間
いただけますか。合計をちょっと。

○委員（大倉裕一君） 概算で結構ですけど。

○委員長（増田一喜君） 土木分でしょう。

○委員（大倉裕一君） はい。

○建設部次長（西 竜一君） 今、前段のほう
でお話をされた件数についてなんですけど、毎年
大体建設部関係にはですね、1000件ほど地
域要望というのが出てきます。これは、小さい
修繕からですね、大きな道路改良工事まで様々
ではございますが、大体1000件ほど出てま
います。

通常ですね、予算的に考えますと20%以下、
まあ15から20ぐらいが大体毎年ですね、実
施できるぐらいの予算規模ということで考えて
おります。

それだけでいけばですね、5年もあれば全部
できるんじゃないかということになりますけど、
1年190件、そしたらまた次の年新規で19
0件ということで毎年出てきておりますので、
それをですね、対応していくというような形に
なりますので、この地域の要望のですね、在り
方自体もちょっと今後はですね、私どももです
ね、地域の方々と打ち合わせていかなくちやい
けないところはあるのかなというふうに考えし
ますが、実際、今のところ、毎年1000件ず
つ、要望対応が終わっても、改めて、1000
件ずつぐらいとなって大体出てくるようなこと
になりますので。はい。大体それが――。です
ので、それを、20%ですので、本来であれば
100%というのがですね。毎年増えていくん
で。100%というのにしたいんですけど、
それがなかなかできない状態の予算規模とい
うことで、すいません、それだけについては、ち
よっと今お答えしたいなと思っております。

○土木課長（小原聖児君） ただいま委員の事
業費の件でございましたが、地域要望というこ
とで、道路、水路、公園といろいろあります。
いろんな課にちょっとまたがっているようなこ
とでありますし、また、工事費、修繕代、原材

料費とかいろいろございますので、後ほど整理しましてから提出したいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

○委員長（増田一喜君） いいですか。

○委員（大倉裕一君） はい、構いません。

○都市整備課長（一美晋策君） ただいまの御質問の補足になりますが、公園等につきましては高木の伐採というようなことで地元の要望が上がっております。

これにつきましてはですね、地元愛護会と立ち会ってからですね、どこまでというようなことでやるものですから、現状として事業費、それに幾らかかるのかって言われると、ちょっとですね、どこまで切るのかという問題があるものですから、そこ辺りは地元と確認した上でということでの対応を予定しておりますので、公園等については事業費というようなことを現状としてなかなかつかみづらいというのが現状かと思っております。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） お言葉なんですけれども、ある程度の事業費を概算としてお持ちになったところで地域との交渉に入られるというふうに私は思うんですね。ですので、金額的にここまでは切れるけど、これからお金多分ちょっと足りませんよというような話になっていくんではないかという思いからすると、ちょっと課長の今の説明の部分は受け入れ難いところかなというふうに思っております。

後ほどで構いませんので、大枠的なところですね、地域要望に対する予算をお示しいただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（増田一喜君） では、後ですね。後ほど全委員にお知らせいただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○委員（北園武広君） 95ページの空き家バンク事業と関連します新規の空き家等対策事業

に関してですけれども、今、空き家バンク事業の中で把握されている空き家の件数、分かれば教えていただきたいのと、それと、今どれだけ登録件数はされておるのかというのを教えていただきたいと。

空き家対策の今度の新規事業のやつですけども、空き家の実態把握を業務ってというような概要で書いてあったんですけど、もう少しちょっと具体的に内容を教えていただければと思ひます。よろしくお願ひします。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 平成26年、27年で一度空き家の調査を行っておる中で、空き家の数がこのときに2222件、そのうちの空き家バンクの対象となる空き家は、これは目視での調査、結果ということですけども933件、これを空き家バンク対象と初期にしたところですよ。

今回、新規事業で出しております空き家等対策事業につきましては、この空き家調査をですね、改めてやるということと考えております。5年、6年ぐらい前に行った後に、熊本地震も経験いたしましたし、今回、豪雨災害もあったということで、改めて実態のほうを把握したいということで今回実態調査をさせていただきます。

それと、現在の空き家バンクの登録状況でございますけれども、今のところの2月末の累計ということになりますけれども、登録件数が70件、それと、そのうちの成約がですね、売買、賃貸合わせまして47件ございます。

以上です。

○委員（北園武広君） ありがとうございます。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） 今の関連で、新たに空き家のほうを実態把握されるということで、委託なので外注というようなことになっているのかなというふうに思うんですけども、一番詳し

いのは地域にいらっしゃる、住んでいらっしゃる方々であって、市のほうに協力をさせていただく市政協力員さんとか、民生委員さんとかですね、いらっしゃるのではないかなど。この方々との、もし契約ができればですね、住民自治組織への財源というような形でもつながっていきますので、そういったところも1つの取組としては面白い取組といたしますか、実態に即した結果を得やすい取組になっていくのではないかなというふうに思いますので、この場で答えをとらしては申し上げませんので、そういったことも視野に入れていただきながら、この事業を進めていただければなというふうに思いました。

すいません。ちょっと意見っぽくなりましたけど。

○委員長（増田一喜君） 意見ですね。

ほかに質問ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第5号・令和3年度八代市一般会計予算中、当委員会関係分については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部入替えのため小会いたします。

（午後2時04分 小会）

（午後2時05分 本会）

◎議案第9号・令和3年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計予算

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、議案第9号・令和3年度八代市農業集

落排水処理施設事業特別会計予算についてを議題とし、建設部より説明を求めます。

○下水道総務課長（奥村勝己君） こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）下水道総務課の奥村でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、議案第9号・令和3年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計予算につきまして説明をさせていただきます。着座にて説明させていただきます。

○委員長（増田一喜君） どうぞ。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 予算書の説明の前に、まず、八代市農業集落排水処理施設事業の概要につきまして御説明させていただきます。

この事業は、農業集落の生活環境の向上と公共用水域の水質保全を目的として、東陽町と泉町の中心部で実施しております。

東陽町が平成7年度から11年度まで、泉町が平成4年度から8年度まで事業を行っておりまして、建設事業は完了しており、現在は施設の維持管理や使用料の徴収などが主な業務となっております。

令和元年度末の東陽町と泉町を合わせた処理区域内人口は1895人、水洗化人口が1577人でございますので、水洗化率は83.9%となっております。

令和2年度は全体で新規、増設それぞれ1世帯がっておりますが、地域全体の人口減少に伴い、農集区域内の水洗化人口も減少している状況でございますので、令和2年度末の水洗化率は、令和元年度末と同程度を見込んでおります。

このような状況の中で、令和3年度予算も引き続き農業集落の生活環境の向上のための排水処理施設の維持管理費が主なものとなっております。

以上、簡単ですが概要説明を終わります。

続きまして、令和3年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計予算の内容について御説明いたします。

予算書の95ページをお願いいたします。

歳入歳出予算の総額は、第1条第1項でそれぞれ9370万9000円と定めております。この額は前年度より174万2000円の減額となっております。

第2項・歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、96ページの第1表歳入歳出予算に記載しております。

第2表の地方債は、地方自治法第230条第1項の規定により、97ページの第2表地方債のとおり、資本費平準化債を目的に、1330万円を限度額として、起債の方法を証書借入または証券発行とし、利率及び償還の方法は記載のとおりでございます。

それでは、本予算につきまして、99ページからの説明書を基に主なものを御説明いたします。

おめくりいただきまして、102ページをお願いいたします。歳入でございます。

款1・負担金及び負担金、項1・分担金、目1・農業集落排水事業費分担金20万円は、新規ます設置者に対して、条例に基づき1世帯当たり10万円を徴収してございまして、前年度と同様2件分を予定しております。

款2・使用料及び手数料、項1・使用料、目1・農業集落排水処理施設使用料では3678万1000円を計上しており、前年度より15万6000円の増となっております。

103ページをお願いいたします。

款3・繰入金、項1、目1・一般会計繰入金4341万1000円は、農業総務費からの一般会計繰入金で、前年度より240万1000円の減となっております。これは、長期債の元利償還額の歳出減が主な要因でございます。

104ページをお願いいたします。

款6、項1・市債、目1・農業集落排水事業債1330万円は、資本費平準化債でございまして、50万円の増となっております。資本費平準化債は、使用者の負担を軽減し、かつ世代間の負担の公平を図るため、本事業における負担の一部を後年度に繰り延べるためのものがございます。

105ページをお願いいたします。歳出でございます。

款1、項1・農業集落排水処理事業費、目1・農業集落排水事業費4073万3000円は、農業集落排水処理施設の維持管理と普及促進及び使用料の徴収などに要する経費でございます。

主な内訳は、職員1名分の人件費768万2000円、東陽地区一般事務事業は処理場及びマンホールポンプの電気料や施設の維持管理業務委託などで2139万7000円を計上しております。また、泉地区一般事務事業1165万4000円も、東陽地区と同様、維持管理経費でございます。

次に、款2、項1・公債費5297万6000円は、長期債償還元金が4778万6000円、長期債償還利子が519万円でございます。前年度より225万円の減額となっており、内訳は説明欄に記載のとおりでございます。

次の106ページから111ページまでは、給与費明細書に関する調書でございますが、説明は省略させていただきます。

112ページをお願いいたします。地方債の当該年度末における現在高の見込みに関する調書でございます。

農業集落排水整備事業債の前年度末現在高見込額は2億6267万6000円、当該年度中起債見込額が1330万円、同年度中元金償還見込額が4778万6000円でございますので、当該年度末現在高見込額は2億2819万円でございます。

農業集落排水処理施設事業につきましては、施設の長寿命化と施設更新・整備に要する費用の平準化を図りながら計画的な経営を目指し、水洗化率や収納率の向上による使用料収入の確保や、適切な維持管理による経費のさらなる縮減に努めてまいりたいと考えております。

以上で、議案第9号・令和3年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計予算の説明を終わります。御審議のほどよろしく願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（大倉裕一君） 公債費のことでお尋ねになりますけれども、市債を借りながら平準化していくような形を取ってやるわけですけども、負担を平準化させて負担を抑えていくというところはですね、理解をしておりますけれども、この年度末の現在高見込みですか、起債の償還が全て終わるってというのは何年度を見越してあるのかということと、計画どおりに順調にいつているのかどうかということをお聞かせいただきたいと思います。

○委員長（増田一喜君） どなたが答えますか。

○下水道総務課主幹兼水洗化促進係長（上村和寛君） 水洗化促進係の上村です。よろしく願いいたします。

起債の見込みは、すいません、今はちょっと手元に持ってきてないですけども、この起債というのが建設当初の工事費の分になりますので、これまでのところは、当初の分になりますので、今後特に増額したとか減額するということにはなりませんので、順調に起債の返還は行っているというところです。

○委員（大倉裕一君） 何年度でこの公債費を割るのでしょうか。それと、一方では、片方、平準化債というものを借りながらということですよ。平準化債をずっと借り続けていくという形になるのでしょうか。そしたら、ずっと公

債費が残っていくという形になりますよね。どこかでゼロにしてあげなければいけないと思うんですけど。

○委員長（増田一喜君） この償還がいつ頃終わるんですかというのがお尋ねの1つです。

○下水道総務課主幹兼水洗化促進係長（上村和寛君） 平準化債のほうは、建設当初に必要なだった費用ということになりますので、今後、平準化債のほうはもう減額してまいります。

それから、支払いの、すいません、償還の最終的な部分というのは、今手元に資料を持ちませんので、申し訳ありませんけど、今ちょっとここでお答することはできません。申し訳ありません。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） 予算審査ですので、あらゆる資料はですね、議会のほうにも持ってきていただくような態勢といいますか、気構えて来ていただければというふうに思います。後ほどお知らせいただければと思いますので、よろしく願いします。

○委員長（増田一喜君） ということで、後ほど全委員にお知らせいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第9号・令和3年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計予算については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第10号・令和3年度八代市公共浄化槽等整備推進事業特別会計予算

○委員長（増田一喜君） 次に、議案第10号・令和3年度八代市公共浄化槽等整備推進事業特別会計予算についてを議題とし、建設部より説明を求めます。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 下水道総務課の奥村でございます。引き続きよろしく願いいたします。

議案第10号・令和3年度八代市公共浄化槽等整備推進事業特別会計予算につきまして、着座にて説明をさせていただきます。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 予算書の説明の前に、まず、八代市公共浄化槽等整備推進事業の概要につきまして御説明させていただきます。

この事業は、市が設置主体となって、浄化槽を東陽町、泉町の農業集落排水処理施設事業の認可区域以外の地区で整備し、雑排水等を処理することにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るもので、東陽町は平成13年度から、泉町は14年度からそれぞれ実施しております。

なお、令和2年度までは、八代市浄化槽市町村整備推進事業という事業名でしたが、浄化槽法の改正に伴い、令和3年度より名称を公共浄化槽等整備推進事業に変更いたします。

令和2年度は、当初設置予定4基に対して、泉町で3基設置いたしており、令和3年度も前年と同様、4基の設置を予定しております。

以上、簡単ですが概要説明を終わります。

続きまして、令和3年度八代市公共浄化槽等整備推進事業特別会計予算の内容について御説明いたします。

予算書の115ページをお願いいたします。

歳入歳出予算の総額は、第1条第1項で、そ

れぞれを5081万8000円と定めております。この額は、前年度より1万4000円の減額となっております。

第2項・歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、116ページの第1表歳入歳出予算に記載しております。

第2条の地方債は、地方自治法第230条第1項の規定により、117ページ下段の第2表地方債のとおり、浄化槽市町村整備推進事業を目的に300万円を限度額として、起債の方法を証書借入または証券発行とし、利率及び償還の方法は記載のとおりでございます。

それでは、本予算につきまして、119ページからの説明書を基に主なものを御説明いたします。

おめくりいただきまして、122ページをお願いいたします。歳入でございます。

款1・分担金及び負担金、項1・分担金、目1・公共浄化槽等整備推進事業費分担金40万円は、合併処理浄化槽を市で設置する際、条例に基づき1基当たり10万円を徴収しております。前年度と同様、4基分を見込んでおります。

款2・使用料及び手数料、項1・使用料、目1・公共浄化槽等整備推進事業使用料では2668万3000円を計上しており、令和元年度から40万7000円の増となっております。

123ページをお願いいたします。

款3、項1・国庫補助金、目1・公共浄化槽等整備推進事業費国庫補助金131万6000円は、浄化槽整備に関する補助金で、事業費の3分の1が交付されるものです。

款4・県支出金、項1・県補助金、目1・公共浄化槽等整備推進事業費県補助金16万3000円は、前年度設置した事業実績に対し、6.5%交付される後年交付金でございます。

款5・繰入金、項1、目1・一般会計繰入金1923万9000円は、生活環境総務費から

の一般会計繰入金で、維持管理費や公債費などに充当しております。

124ページをお願いします。

款5・繰入金の浄化槽市町村整備推進事業減債基金繰入金は、令和2年度で全額の繰入れが終了したことで、計上はありません。

125ページをお願いいたします。

款8、項1・市債、目1・公共浄化槽等整備推進事業債300万円は、新規予定設置基数4基が対象となります。

おめくりいただきまして、126ページをお願いいたします。歳出でございます。

款1、項1・公共浄化槽等整備推進事業費、目1・浄化槽総務費3895万1000円は、浄化槽施設の維持管理と普及促進及び使用料の徴収などに要する経費でございます。

内訳は、右側の説明欄に記載のとおり、職員1人分の人件費と東陽地区及び泉地区一般事務事業に必要な費用で、東陽地区一般事務事業1059万8000円は、152基の浄化槽法定検査手数料59万1000円、浄化槽維持管理委託料分910万1000円、システム改修委託費42万9000円などが主なものでございます。

泉地区一般事務事業1862万7000円は、浄化槽法定検査手数料264基分103万3000円、浄化槽維持管理委託料264基分1719万3000円などが主なものでございます。

目2・浄化槽整備費528万円は、説明欄に記載の東陽地区整備事業263万円、泉地区整備事業費265万円で、それぞれ浄化槽新設工事2基分が主なものでございます。

浄化槽整備費は、前年度と比べまして44万円の増となっておりますが、これは単独浄化槽から転換する際の宅内配管に対し、新たに30万円を限度に補助することが主な要因でございます。

款2、項1・公債費、目1・元金が540万

6000円、目2・利子が118万1000円でございます。なお、地区ごとの内訳は説明欄に記載のとおりでございます。

127ページから132ページまでは給与費明細書、133ページの上段は債務負担行為の支出予定額等に関する調書でございますが、説明は省略させていただきます。

133ページ下段をお願いいたします。地方債の当該年度末における現在高の見込みに関する調書でございます。

公共浄化槽等整備推進事業債の前年度末現在高見込みの額が7732万2000円、当該年度中起債見込額が300万円、当該年度中元金償還見込額が540万6000円でございますので、当年度末現在高見込額は7492万6000円でございます。

公共浄化槽等整備推進事業につきましては、適切な維持管理による経費のさらなる縮減や使用料の増収に努めてまいりたいと考えております。

以上で、議案第10号・令和3年度八代市公共浄化槽等整備推進事業特別会計予算の説明を終わります。御審議のほどよろしくをお願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（大倉裕一君） この会計も同じくですが、起債の償還の終了年度というのはいつになっておりますか。

○下水道総務課主幹兼水洗化促進係長（上村和寛君） 申し訳ありません。こちらも年度というのはちょっと今手元に資料がないんですけども、30年度末の残高としまして8499万円でございます。昨年度が389万8000円ということで、約400万円の減額になっておりますので、ざっくり計算しますと20年ぐらいというような、計算上はなりません。申し訳ありません。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） 後ほどまたお知らせをいただければと思います。

○委員長（増田一喜君） 後でお知らせいただければと思います。

ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。

○委員（大倉裕一君） 一般会計のほうからの繰入金、これはもう法定内というんですかね、ルール分というようなどころがあるかもしれませんが、極力少額で済むようなですね、取組をお願いしておきたいというふうに思います。前の会計も同じことを言いたかったんですけど、忘れてしまいましたので、併せてお願いしておきたいと思います。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第10号・令和3年度八代市公共浄化槽等整備推進事業特別会計予算については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

小会いたします。

（午後2時30分 小会）

（午後2時39分 本会）

◎議案第17号・令和3年度八代市下水道事業会計予算

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、議案第17号・令和3年度八代市下水道事業会計予算についてを議題とし、建設部より説明を求めます。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 下水道総務課の奥村でございます。隣が下水道建設課長の涌田でございます。よろしくお願いいたします。
着座にて説明します。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○下水道総務課長（奥村勝己君） それでは、議案第17号・令和3年度八代市下水道事業会計予算について御説明いたします。別冊の予算書の1ページをお願いいたします。

第1条の総則で、令和3年度八代市下水道事業会計の予算は次に定めるところ、すなわち、第2条から第11条に定めるところとしております。

第2条、業務の予定量でございます。令和3年度末の予定として、処理区域内人口を6万854人、処理区域面積を1763ヘクタール、水洗化人口を5万2639人、年間総処理水量を702万4642立米、年間有収水量を598万4995立米、また、主要な建設改良事業といたしまして、管渠施設整備費を8億5910万1000円、ポンプ場施設整備費を2億9244万6000円及び水処理センター施設整備費を1479万円としております。

おめくりいただきまして、2ページをお願いいたします。

第3条、収益的収入及び支出の予定額でございます。

まず、収入でございます。第1款・下水道事業収益で35億5649万9000円、内訳としまして、第1項・営業収益で14億5882万円、第2項・営業外収益で20億9767万6000円、第3項・特別利益で3000円を計上いたしております。

次に、支出でございます。第1款・下水道事業費用で29億2191万円、内訳としまして、第1項・営業費用で26億433万9000円、第2項・営業外費用で3億1156万9000円、第3項・特別損失で100万2000円、

第4項・予備費で500万円を計上いたしております。

したがって、差引き収支は6億3458万9000円の黒字を見込んでおります。

3ページをお願いいたします。

第4条、資本的収入及び支出の予定額でございます。

まず、収入でございます。第1款・資本的収入で19億4906万9000円、内訳としまして、第1項・企業債で10億8800万円、第2項・補助金で6億3543万8000円、第3項・受益者負担金及び分担金で4624万5000円、第4項・他会計負担金で1億7938万6000円を計上いたしております。

次に、支出でございます。第1款・資本的支出で30億197万円、内訳としまして、第1項・建設改良費で11億9742万円、第2項・企業債償還金で18億355万円、第3項・予備費で100万円を計上いたしております。

したがって、差引き収支は10億5290万1000円の財源不足を見込んでおります。

なお、4条の括弧書きである資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額10億5290万1000円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額8515万5000円、当年度分損益勘定留保資金5億3065万円及び当年度利益剰余金処分額4億3709万6000円で補填するものとしております。

なお、収益的収入及び支出と資本的収入及び支出の詳細につきましては、後ほど予算に関する説明書で御説明いたします。

おめくりいただきまして、4ページをお願いいたします。

第5条、債務負担行為でございます。1件の債務負担行為の設定となりますが、中央ポンプ場改築工事委託（第5期）の期間は令和4年度、限度額は4億3900万円でございます。

第6条は企業債でございます。施設整備に伴う建設改良企業債及び資本費平準化債などの準建設改良企業債を合わせて10億8800万円を限度額として設定しております。

次に、5ページをお願いいたします。

第7条、一時借入金の限度額は20億円と定めております。

第8条は、予定支出の各項の経費の金額の流用でございます。これは、予定支出の各項の経費の金額のうち、項と項の間で流用することができる場合は、営業費用と営業外費用との間のみであることを定めております。

第9条は、議会の議決を経なければ流用することのできない経費として、職員給与費2億2168万1000円を定めております。

第10条、他会計からの補助金としまして、下水道事業会計の経営基盤確立のため、一般会計からこの会計へ補助を受ける金額、いわゆる基準外の繰入金は2億7943万8000円を予定いたしております。

第11条、利益剰余金の処分では、当年度の純利益見込みのうち4億3709万6000円を、先ほどの第4条括弧書きにあります資本的収支の不足を補填するため、減債積立金として積立て、処分することをあらかじめ定めるものがございます。

おめくりいただきまして、7ページをお願いいたします。下水道事業会計予算に関する説明書でございます。

1枚めくっていただきますと、地方公営企業法施行令第17条の2に基づき、9ページから13ページまで予算の実施計画、14ページに予定キャッシュ・フロー計算書、15ページから19ページまで令和2年度の予定損益計算書及び予定貸借対照表、20ページから22ページまで令和3年度の予定貸借対照表を掲載いたしております。

それでは、令和3年度予算の詳細につきまして

て御説明いたします。23ページをお願いいたします。

収益的収入及び支出でございます。

まず、収入でございます。

款1・下水道事業収益、項1・営業収益、目1・下水道使用料で12億3289万、目2・雨水処理負担金で2億2446万2000円、目3・その他営業収益で146万8000円を予定しております。

下水道使用料が昨年度より1180万円の増となっておりますのは、接続世帯数の増加の影響が主な要因でございます。また、雨水処理負担金は、雨水処理経費に係る基準内の一般会計繰入金で、その他営業収益は督促手数料が主なものでございます。

おめくりいただきまして、24ページをお願いいたします。

項2・営業外収益では、目2・他会計負担金で8億432万7000円、目4・長期前受金戻入で12億5904万3000円がその主なものでございます。

なお、他会計負担金は、汚水分の元利償還金等に係る一般会計からの基準内繰入金でございます。また、長期前受金戻入は、施設整備費を耐用年数で割って費用化する減価償却と同様に、これまで施設の整備を行った際に受け入れた国庫補助金などを耐用年数で割って収益化するのでございます。

次の項3・特別利益の説明は省略させていただき、25ページをお願いいたします。

収益的支出でございます。

まず、款1・下水道事業費用、項1・営業費用、目1・管渠費で6491万4000円を予定いたしております。

管渠費は、管渠の維持管理に要する費用でございます。主なものは、節区分一番上の修繕費1774万9000円で、右側の説明欄に記載のマンホールポンプ等の修繕を、また、2つ

下の委託料3545万6000円で、マンホールポンプ清掃等業務委託や下水道台帳作成業務委託などを予定しております。

次に、目2・ポンプ場費4637万7000円は、市内6か所にあります雨水及び汚水ポンプ場の維持管理に要する費用でございます。

主なものは、節区分4つ目の修繕費414万円で、松崎中継ポンプ場汚水流量計修繕など、3つ下の委託料1845万8000円で、家用発電機保守点検委託や松崎中継ポンプ場発電機分解点検整備委託、中央・麦島ポンプ場し渣処分業務委託などを予定しております。

おめくりいただきまして、26ページをお願いいたします。

目3・水処理センター費4億924万3000円は、水処理センターの維持管理に要する費用でございます。

主なものは、右側の説明欄に記載の一般職5名分の人件費のほか、節区分中ほどの修繕費1240万7000円で、ナンバー1汚泥脱水機修繕などを、2つ下の委託料2億7537万6000円で送風機分解点検整備委託や施設の運転業務委託、脱水汚泥処理業務委託などを、3つ下の工事請負費3422万9000円で管理棟屋上防水改修工事や管理棟トイレ設備改修工事などを予定しております。

次に、27ページのみ4・流域下水道管理費1億4023万2000円は、千丁及び鏡処理区を含む八代北部流域下水道において、県が設置している八代北部浄化センターや幹線管渠などの維持管理費を、構成団体である八代市、宇城市、氷川町で負担する八代北部流域下水道維持管理負担金でございます。

次に、目5・総係費1億6464万2000円は、使用料の賦課徴収経費や水洗化促進経費及び事業運営に要する総括的費用でございます。

主な費用は、一般職14名分の人件費のほか、節区分下から6番目、委託料1585万900

0円では、右側説明欄にあります下水道使用料徴収業務委託や水洗化促進業務委託、コンビニ収納事務委託、検針業務委託、料金システム改修業務委託を、3つ下の補助金600万円で下水道への接続等に対して助成を行う排水設備工事費助成金を予定しております。

おめくりいただきまして、28ページをお願いいたします。

目6・減価償却費は17億7868万8000円でございます。内訳は、有形固定資産減価償却費で17億2413万5000円、無形固定資産減価償却費で5455万3000円でございます。

次に、目7・資産減耗費は24万2000円でございます。節区分に固定資産除却費として計上していますが、これは管渠等について効率的な延命化や改築更新を実施することに伴い、当該固定資産のうち減価償却費として費用化されていない額について除却費として計上するものでございます。

次に、項2・営業外費用、目1・支払利息及び企業債取扱諸費で3億1156万8000円は、企業債及び一時借入金の利息でございます。

次に、29ページの項3・特別損失、目2・過年度損益修正損100万円は、過年度分の下水道使用料調定減に伴う特別損失でございます。

次に、項4・予備費では、前年度と同様500万円を計上いたしております。

おめくりいただきまして、30ページをお願いいたします。

資本的収入及び支出でございます。

まず、収入でございますが、款1・資本的収入、項1、目1・企業債で10億8800万円を予定しております。

内訳は、令和3年度の建設改良に伴う企業債7億150万円及び資本費平準化債などの準建設改良企業債3億8650万円でございます。

昨年度より6億3590万円減少しておりま

すのは、雨水調整池等に係る建設改良費の減に加え、3月補正でも説明しましたとおり、国の3次補正に伴い、一部事業を前倒ししたことによるものでございます。

次に、31ページの項2・補助金、目1・国庫補助金3億5600万円は、建設改良に伴う国庫補助金であり、目2・他会計補助金2億7943万8000円は、汚水処理の元金償還金等に係る一般会計からの基準外繰入金でございます。

国庫補助金につきましては、企業債と同様に施設改良費の減により減額となっており、また、他会計補助金につきましては、令和元年度から下水道使用料改定を行うなど経営改善を図ることで徐々に減らしていくこととしており、1473万3000円の減となっております。

次に、項3・受益者負担金及び分担金、目1・受益者負担金3532万5000円と、目2・受益者分担金1092万円は、下水道の供用開始に伴う八代処理区、鏡処理区の受益者負担金及び八代東部処理区、千丁処理区の受益者分担金でございます。

受益者負担金及び分担金が昨年度より517万3000円増加しておりますのは、賦課予定面積の増によるものでございます。

おめくりいただきまして、32ページをお願いいたします。

項4・負担金、目1・他会計負担金1億7938万6000円は、汚水処理元金償還金等に係る一般会計からの基準外繰入金である一般会計負担金が1億7627万3000円及び汚水管築造工事に伴う水道事業からの同時施工負担金である水道事業負担金が311万3000円でございます。

次の33ページからは資本的支出でございます。

款1・資本的支出、項1・建設改良費、目1・管渠施設整備費で8億5910万1000

円を予定しております。

これは管渠施設の建設に要する費用で、主なものは、一般職12名分の人件費のほか、節区分中ほどの委託料1億4553万円では、右側の説明欄に記載の管渠築造工事に伴う設計業務委託（通常分）で、3処理区合わせて8244万円、また、管渠築造工事に伴う設計業務委託（ストックマネジメント分）で、八代処理区分として429万円、浸水被害軽減のため、田中西町に整備しております北部中央雨水調整池に係る関連経費として、北部中央雨水調整池建物事後調査業務委託等で3700万円、さらに、広域化共同化に伴う公共下水道事業計画変更業務委託等で2200万円を計上しております。

3つ下の工事請負費の5億7337万円については、管渠築造工事通常分で、八代処理区分として3億2123万円、千丁処理区分として2394万円、鏡処理区分として1億2320万円、3処理区合わせて4億6837万円を計上しており、八代処理区では、八千把・麦島・宮地地区で約2.0キロメートル、千丁処理区では、古閑出・西牟田上地区で約0.2キロメートル、鏡処理区では、両出・貝洲地区で約0.5キロメートルの、合計約2.7キロメートルの整備を予定しております。

また、管渠築造工事（ストックマネジメント分）は八代処理区分で500万円を予定しており、整備後の年数が経過している中心部付近で老朽化が著しいと診断結果が出ている部分を予定しております。

さらに、北部中央雨水調整池整備に伴う公園内の復旧や周辺道路の舗装復旧工事等としまして1億円を計上しております。

節区分下から2つ目、補償補填及び賠償金4039万円では、管渠築造工事に伴う地下埋設物等移設補償費で、3処理区それぞれ予定しております。

なお、公共下水道事業予定箇所につきまして

は、お手元の別紙、建設環境委員会資料を後ほど御参照いただければと思います。

次に、目2・ポンプ場施設整備費で2億9244万6000円の主なものは、委託料2億9200万円で、中央ポンプ場改築工事委託や中央ポンプ場しゅんせつ業務委託を予定しております。

おめくりいただきまして、34ページをお願いいたします。

次に、目3・水処理センター施設整備費1479万円の主なものは委託料1000万円で、汚水処理設備増設に伴う詳細設計業務委託を予定しております。

次に、目4・流域下水道建設費2823万9000円は、八代北部流域下水道建設負担金であり、八代北部浄化センター改築更新工事などの建設費が予定されており、構成団体である八代市、宇城市、氷川町で負担金を支払うものでございます。

次に、目5・営業設備費284万4000円の主なものは、工具・器具及び備品購入費96万8000円で、水質分析用をインキュベーターの購入を予定しております。

次に、項2、目1・企業債償還金18億355万円は、これまでに借り入れた企業債の償還元金でございます。

項3、目1・予備費では100万円を計上いたしております。

次に、35ページから42ページまでは、給与費明細書、債務負担行為に関する調書、企業債に関する調書でございますが、個別の説明は省略させていただきます。

最後に、43ページと44ページに注記を記載しております。これは、地方公営企業法施行規則第35条に基づき、重要な会計方針に係る事項と予定貸借対照表に関する注記を記載しております。

下水道事業につきましては、令和3年度も浸

水の防除、汚水の排除、トイレの水洗化といった生活環境の向上を図り、安全で安心な市民生活の確保に努めるとともに、持続可能な下水道の実現のため、健全経営に努めてまいります。

以上で、議案第17号・令和3年度八代市下水道事業会計予算の説明を終わります。御審議のほどよろしく願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。ありませんか、ないですか。

○委員（福嶋安徳君） この管渠のいろいろ、あれが必要だと思いますが、この管渠については寿命は、どのぐらいの寿命になるとですか。

○下水道建設課長（涌田直美君） 管渠につきましては50年ということになります。

以上です。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（福嶋安徳君） 大体そのくらいになる箇所というのはあるんですか、50年ぐらい。

○下水道建設課長（涌田直美君） 旧八代処理区につきましては、昭和53年度から汚水のほう整備をやっておりまして、約40年ぐらい、整備は終わって一番古い分で40年ぐらいたっております。

以前入れたヒューム管は接続部分とかですね、クラックとかいうのがありまして、その分を昨年度から管の更新、塩化ビニール管をその中に入れたりとかですね、そういった不明水をなくすような工法で順次やっているところでございます。

○委員（福嶋安徳君） 分かりました。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。

○委員（大倉裕一君） この会計につきましても、一般会計からの繰入金が非常に大きいとい

うことで、まあ今年始まったわけではありませんけれども、例年ですね、同じような処理になっておりますけれども、繰入れができるだけ少なくなるような努力をお願いしておきたいというふうに思います。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。それでは、これより採決いたします。

議案第17号・令和3年度八代市下水道事業会計予算については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部入れ替わりのため小会いたします。

（午後3時06分 小会）

（午後3時07分 本会）

◎議案第28号・八代市空家等の適正な管理に関する条例の制定について

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、条例議案の審査に入ります。

議案第28号・八代市空家等の適正な管理に関する条例の制定についてを議題とし、説明を求めます。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）住宅課、下村でございます。隣は、担当係長の西田でございます。よろしく申し上げます。（「よろしく申し上げます」と呼ぶ者あり）

それでは、座って進めさせていただきます。

○委員長（増田一喜君） はい。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 議案第28号・八代市空家等の適正な管理に関する条例についてでございます。

議案書65ページでございます。

提案理由としまして、国の空家等対策の推進

に関する特例措置法に基づきまして、空き家等の所有者等における適切な管理の促進及び本市における空き家等に関する施策を推進するため、条例を制定することが必要となることから、今回の御提案でございます。

66ページを御覧ください。八代市空家等の適正な管理に関する条例でございます。

別途配付いたしております委員会資料、お持ちでいらっしゃいますでしょうか。こちらのですね、1枚めくっていただきまして、見開きのA3判の広いやつ、これで御説明させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

それでは左上の、まず、第1条でございますが、近年、人口減少や既存の住宅・建築物の老朽化、社会的ニーズ及び産業構造の変化等に伴いまして、空き家が増加している、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしているところでございます。

このような状況を背景に、地域住民の安全安心、また、空き家等の活用を図るために、平成27年の5月に全面施行されました空家等対策の推進に関する特別措置法によって、国として空き家対策に取り組んでいく法的な部分が構築されるとともに、空き家に関する対策を適切に努めていくことが市町村の責務として位置づけられたところです。

本市におきましても、市民等の生命、身体及び財産を保護するとともに、良好な生活環境の保全を図り、併せて空き家等の活用を促進し、公共の福祉の増進と地域の振興に寄与することを目的としております。

その下、第2条の定義でございますが、市民等とは、市内に居住し、もしくは在勤する者、または市内の土地もしくは建築物の所有、もしくは権原に基づく占有者をいいます。

このほかにですね、条例上の定義ではございませんけれども、空き家等と申しますのは、建

築物またはこれに附属する工作物であって、現に居住その他の使用がなされていない空き家等及びその敷地が対象となります。

また、特定空家等と申しますのは、空き家等の中で、そのまま放置すれば倒壊するなど著しく保安上危険となるおそれのある状態、または著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理ができていないことにより著しく景観を損なっている状態、その他、周辺的生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態、これらが認められる空き家等を特定空家と申します。

次に、第4条から第7条につきましては、空き家等の所有者と、市、市民等、事業者のそれぞれの責務や役割について規定をしております。

なお、第5条の市の責務に規定しております空家等対策計画につきましては、昨年の3月に計画策定いたしまして、6月の委員会にて御報告したところでございます。

右上のほうに行きまして、第8条、特定空家等の認定でございます。本市で空き家等の所在、空き家等の所在者等を把握するための調査や空き家等の立入調査などの結果を基に、特定空家等として判断した場合は、本市において、その認定を行うというところです。

また、特定空家等として判断する際に、法律、建築、不動産など専門的な協議を行う場として、法第7条に基づく協議会を活用して意見を聴取することができます。

その下、第9条の緊急安全措置は、認定された特定空き家等について、緊急に危険を回避する必要があるときに、本市が必要最低限の措置を行うことができるよう定めるものです。

必要最低限の措置としまして、例えば、強風時の飛散防止ネットの施工であったり、倒壊防止のための補強及び倒壊部分の撤去などが考えられます。

第10条の八代市空家等対策協議会につつま

しては、法第7条に規定します協議会の設置について定めるものです。

協議会では、本市の空き家対策を総合的かつ計画的に推進するため、同条第2項の第1号から第5号の項目について協議を行います。

その内容について、第1号は、空家等対策計画の作成及び見直しなどの変更、実施に関することとございます。

第2号は、空き家等の所有者等の調査及び立入調査などに関することです。

第3号は、特定空家等の判断に関することです。

第4号は、認定された特定空家等に対するの措置に関することです。

第5号は、その他空家等に関する対策の推進に関することです。

なお、同条第4項の協議会を構成する委員につきましては、市民代表、法務、不動産、建築等に関する学識経験者や関係行政機関、その他市長が認める者など12人以内の委員としております。

その下、第11条の関係機関との連携は、本市における空き家等対策の実施のため、警察、消防等の関係機関に対し、情報の提供や協力を求めるものです。

以上が条例についての説明となります。御審議のほど、よろしく申し上げます。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（大倉裕一君） 持ち主さんが不明である場合に、例えば固定資産の情報から資産税課への情報を求めたりとかというのは、この11条に関係してくるんですか。これでできることになるんですか。それとも、これが定めてあってもできないという判断になるんでしょうか。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 身元の特定に関しましては、まず、例えば住民票であったり戸籍であったり、そういったものもなんです

けれども、法務局の台帳ですね、からたどっていくという作業に入ります。その中で、どうしても尋ね当たらないという場合もある可能性がありますので、それから先というのは、一番最たるところになれば略式代執行あたりに移っていくよう話になります。

ですので、適正管理できる方がいらっしゃらない、対象者がいらっしゃらないという場合は、そういったことも考えられるということになります。

○委員（大倉裕一君） もっと分かりやすく。

○住宅課主幹兼空家対策係長（西田昌博君）

よろしく申し上げます。

先ほど委員の御意見の、この第11条に必ず何か固定資産税とか、そういった調査できるのかというような御質問だったかと思いますが、国とですね、空家等の推進に関する特別措置法によってですね、空き家調査に関しますことにつきましては調査権がございます。ですので、条例といたしますのは、今後、特定空家等に認定するまでの間の所有者を確定するまでに、あらゆるところの調査をするために、今回条例を定めたもので、もともと国のほうの法律によってですね、調査権がありますので、そちらのほうで固定資産税とか所有者のほうは調べております。

○委員（大倉裕一君） 今回の条例には含まれてないけど、上の法律のほうでそのほうは調査権が与えられているので、そちらのほうで個人情報、固定資産税とかそういったところからの身元確認ができるようになっていくということと理解していいということでしょうか。

○住宅課主幹兼空家対策係長（西田昌博君）

はい。

○委員（大倉裕一君） 分かりました。そういうことですね。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） もう1個いいですか。

それで、今回、先ほど予算のほうにも賛成はさせていただいたんですが、費用弁償17万7000円という予算が上がってます。今回、何名だったっけ、12名以内ですかね。費用弁償の金額からすると、年に2回ぐらいが精いっぱいなのかなというように思いますが、この協議会を市は設置しようと思っていच्छやるのかということと、どういうタイミングでこの協議会を開いていこうと思っておられるのかということをお聞かせいただいていますか。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 先ほどはすみませんでした。

こっちに関してはですね、目標といたしましては、令和3年の9月ぐらいをめどに立ち上げようと、設置しようと考えております。

最初はですね、全体の顔見せ等もありますけれども、先ほど協議会の役割の中に、特定空家の判定というのがございました。そういったこともございますので、時期については定期的な開催ということにはできないだろうなということにしています。年間に2回から3回ぐらいになるかというふうに思います。

○委員長（増田一喜君） 分かりましたか。

○委員（大倉裕一君） 年間2回から3回ということはもう協議会の設置をするということと、さっきの予算もですね、費用弁償を認めて、計上されていたので設置をされる方向だとは思ったんですけど確認をさせていただきました。これで空き家のスムーズな対策ができるというふうなふうに思います。はい。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（福嶋安徳君） 今、答弁のほうはもう私も分かりましたけれども、もし、その家族構成でその所在が分かっている場合、もうそこに住んでいなくても家族構成が遠方に行っておられる、そういった方々の内容的には、どのような分かる形になりますか。あくまでも、その家を見る見ないの権力というか、本人が見な

いといういろんな状況が出た場合。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 今回のこの条例の設置の目的の中には、空き家に対する所有者等が適正な管理をしてくださいということとでございますので、例えば八代に空き家を持っていらっしやっって、よそのほうに出向いていらっしやっって適正な管理ができていないという場合には、まずもって指導助言の文書で適正な管理をしてくださいということと促すということになります。

あまりにも相手方の反応がない場合は、それが、あとは勧告になったり指導になったりという、ちょっと文書の中でも重いやつを相手のほうには依頼していくということになります。

○委員長（増田一喜君） 分かりましたか。

○委員（福嶋安徳君） はい。ある程度は分かっているんですけども、もしもその危険家屋であって、家族構成の中でそこを守るという人は分かっているけども、息子か女性かどっちかがそん今の権利を主張するとか、そういった内容になってきたとき、どう考えられるのかというのが。こん、難しかと思うとりますもんで。何か説明もあんまり詳しくできとらんと思いますが。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） いろいろなケースと申しますか、がありますので、その時々合ったような形で、まずもって八代市としては、その所有者、正式な管理者について、この方がということ特定した上でですね、いろいろとちゃんとした対応をしていきたいというふうに思います。

中にはですね、もうほんと、先ほど申し上げましたとおり、ほかに危険な状況であるようなときにはですね、最高、一番重いところとしては、あまりにも管理者が言うことを聞かれないという場合には代執行といった形も執られるということになります。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（橋本隆一君） 確認ですけども、いろんなケースがあるということで、1つは相続放棄をされた場合ですね、全員が相続を放棄されても、もう誰も持ち主が基本的にはなくなるという状態。

それと、例えば相続をされた方が、もう市に私は寄附をしたいんですよというのが前あったんですよ。もう寄附するけん、市にもらってくれんかいて。そういう場合はそういう制度というのはあるんですかねというのが1つ。

ちょっと2点お聞きしたいんですけど。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 今、橋本委員おっしゃった、みんなが財産に対して相続放棄をみんなしている、誰も引受け手がいないというようなときにはですね、実際には義務ではないんですけど、管理義務はその方々には発生はしないんですけども、もうあとはこちらのほうとしてはお願いすると。相続権はないんですけども、その権利を有しておられた方たちの、順番的には一番最後に相続放棄なさった方ですね、お願いをします。どうにかちゃんとして管理をしてくれというような、そういったお願いをするというような。とてもこう——、これもう義務じゃなかもんだけんですけど、難しいんですけど、そこをお願いしていくということになります。

○住宅課主幹兼空家対策係長（西田昌博君）

委員の先ほどのお尋ねの件でございますけども、相続放棄された方がいらっしゃるという場合は、民法の規定がありましてですね、940条に相続放棄しても、その建物には、いわゆる管理をしなければならないようになっております。ただ、強制力はちょっとあまりもないものですから、こちらとしてはそれをお願いをしているという状況でございます。

所有者がないという場合、相続に関係する方々を探してですね、調査して、もういないということでありましたら、相続財産管理人とい

う制度があります。もしくは、もう全くいないという場合、不在者の財産管理人ということもありますけども、それはもう裁判所によって選任していただくということになるものですから、ちょっとそこの手順を踏んでですね、そういう制度を活用するということでございます。

なるべくこちらもですね、所有者を判明して、所有者の方に指導をしているところでございすけども、なかなか今後ですね、所有者がなくて、そのまま老朽した危険家屋になっていくという場合であれば、最終的には略式代執行というようなところになるかということまで、今この条例で考えているところでございます。

○委員（橋本隆一君） その前にその相続人さんたちが市にそのまま、例えば何百坪とか何坪とかあるかと思えますけども、家、土地、それを寄附しますから、あとはもう好きに使ってくださいということは、そういう制度はないんですかね。

○住宅課主幹兼空家対策係長（西田昌博君）

その寄附につきましてはですね、大変申し訳ございませんですけども、そういった制度はございません。

○委員（橋本隆一君） 千丁のほうでですね、今回、神社前の土地がもう空き地になっているんですよ。その空き地の相続者が、これは町に寄附するからちゅういうことで認められているんですよ。そこはどういった形にされてるのかなというのがあって、御存じないかなと思ったんですけど。

○建設部長（潮崎 勝君） 今、委員の御質問の件は私も存ぜんとですけども、基本的に個人の土地をですね、行政が頂く場合には、何かしらの行政的な使用があると、必要だという判断で寄附は頂く場合はございます。

ただし、今、御指摘のテーマになっている空き家と空き地、それがただ、相続の皆様が要らないということで行政側に寄附と言うても、そ

の寄附を受け取る必要性がなければ行政は受け取れません。

以上です。

○委員（橋本隆一君） 分かりました。ちょっとまた地域の方に確認してみます。すみません。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 先ほど福嶋委員のほうからいろいろと御質問いただいたんですけれども、本日別添でお配りしております資料の3ページの3番ですね。3とページ数を打ってありますけれども、その下の欄ですね、特定空家等に対する措置、米印に括弧してありますけれども、ここに書いてあります。特定空家等に対しては、除却、修繕、立木竹の伐採等の措置の助言または指導、勧告、命令が可能と。これは特措法の中でこれだけうたってありますので、さらにその要件が明確化された行政代執行の方法により強制執行が可能ということで、法第14条でここはこういうふううたっているということで御理解いただければと。

○委員（福嶋安徳君） これだけはっきりしとればよかですね。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） はい。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

それでは、この際、この件に関しまして、私も委員として質問をしたいので、暫時、副委員長と交代いたしたいと思っております。副委員長、よろしくお願ひします。

○副委員長（北園武広君） それでは、暫時、委員長の職務を行いますので、よろしくお願ひいたします。

○委員（増田一喜君） 似たようちゅうか、例えば空き家ですね。そこに住んでた親御さん、両親が亡くなりまして空き家になりました。ところが、八代市内にその御子息、娘さんでも息子さんでもいいんですけど、がおられまして、その人にそこを解体してほしい、あるいは、どうか安全に管理してほしいとお願ひしたとし

ても、いやお金がありませんからちょっとしきりませんというような返答があった場合には、やっぱり先ほどの説明ありましたように、勧告、命令とかそういうふうにしていって、最後は代執行でされるのかなと。そこまでの権限がここで発出できるのかなと思うんですが、いかがなんでしょうか。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 増田委員おっしゃったとおり、その段取りといいますか、順番といいますか、そういった文書でのやり取り等を経た後で行くことにまずはなります。はい。この資料の2枚目のほうにですね、別添の2枚目なんですけど、このフローに沿ってずっといくと。

まず、空き家の、一番左上になりますけれども、空き家の苦情が発生したというところから現地調査が始まって、ずっと下のほうに来るわけなんですけれども。そういった文書等をやり取りする中で、その空き家自体が特定空家だということですから認定するということになりましてけれども、その後ですね、協議会のほうにも諮ることになると思います、最終的に。例えば公費解体、代執行等を行う際にもですね。

まずもって特定空家等の認定をする中で、協議会のほうにも、どうでしょうか、これ特定空家かどうかということで判断してもらおうと。最終的には市のほうで認定するわけなんですけれども、認定した特定空家の中でもですね、特にもう危険な空き家等につきましてはですね、最後、代執行というふうな形にもなろうかと思ひます。

○委員（増田一喜君） まあまあ簡単でいいんですけども、要は特定空家等に認定されて、要はそこを危ないから解体してほしいというふうになったときに、本人さんがお金がないから解体できませんと言ってそのまんまにしているときに、その状態があったときに、最終的にそれは行政が代執行して、その代金はそこの相続

人に請求できるのかなど。今のところできるような雰囲気ではあるんですけども。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） お見込みのとおりであります。できることとなります。

以上です。

○委員（増田一喜君） はい、分かりました。

○副委員長（北園武広君） よろしいですか。それでは、委員長の職務を委員長と交代いたします。

○委員長（増田一喜君） ありがとうございます。

それでは、ほかに御質問ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。

○委員（福嶋安徳君） 意見として、この空き家対策については、各地域の皆さんが相当心配する課題であります。それをどうやって解消できるのかなという思いがですね、今までずっと地域の皆さんと協議があったんですけども、なかなかこういった対策というのは思い浮かばない状況で今現在まで至ったわけです。こういった形で対策協議会を立ち上げ、設置されまして、その中で対応できていったら何とかうまくいくのかなというふうに思います。

地域の皆さんは、本当、相当心配されております。危険家屋については、特に車がどンドン通るところ、近くにある可能性があるわけですから、もういつそういった家が倒れるかちゅうのは心配されております。

そういったことで、解決していただくような体制ができればいいかなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（高山正夫君） 特定空家の認定についてですね、先ほどからのお話がありますけども、例えば、特定空家に認定されることによっ

て公費解体ができるんだという安直なですね、そういった狙いの人も出てくる可能性もございますので、あくまでもですね、やっぱり所有者が全ての危険な空き家については処分するというふうな大筋はちゃんと持っておいていただきたいなというふうにも希望します。

以上です。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第28号・八代市空家等の適正な管理に関する条例の制定については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部入れ替わりのため小会いたします。

（午後3時40分 小会）

（午後3時41分 本会）

◎議案第29号・八代市手数料条例の一部改正について

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、議案第29号・八代市手数料条例の一部改正についてを議題とし、説明を求めます。

○首席審議員兼建築指導課長（宮端晋也君）

こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）
建築指導課、宮端でございます。

すみませんが着座にて説明させていただきます。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○首席審議員兼建築指導課長（宮端晋也君）

それでは、議案第29号・八代市手数料条例の一部改正について御説明させていただきます。

議案書は69ページからでございます。また、別途資料を配付いたしております。資料に基づき、説明をさせていただきたいと思っております。よ

ろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

○首席審議員兼建築指導課長（宮端晋也君）

資料の1ページをお願いいたします。

まず、改正理由でございますが、下記の各手数料については国から示された算定根拠により定めておりますが、国から新たな算定根拠を示されたため、所要の改正を行うものでございます。

改正いたします手数料は、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に基づく建築物エネルギー消費性能適合性判定などの4件、並びに、都市の低炭素化の促進に関する法律に基づく低炭素建築物新築等計画の認定でございます。

改正内容は、資料の①に記載しておりますが、手数料条例の別表第16から別表第19までの表中の面積区分を細分化しております。

一例を御説明いたしますと、資料の3ページを御覧いただきたいと思っております。この表の右側が現行で、左側が改正案でございます。

右側の下から2つ目、300平方メートルを超え2000平方メートル以内が18万5000円と9万2500円というものを、左側の改正案では、下から3つ目の300平方メートルを超え1000平方メートル以内が14万3000円と7万1500円。それと、下から2つ目が、1000平方メートルを超え2000平方メートル以内が18万5000円と9万2500円というふうに細分化しております。

また、資料1ページの中段の②にございますが、②の内容のとおり文言の整理を行っております。

施行日は令和3年4月1日といたしております。

以上で説明を終わります。御審議のほどよろしくをお願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

ありませんか。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） それでは、ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。意見ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第29号・八代市手数料条例の一部改正については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決いたしました。（「ありがとうございました」と呼ぶ者あり）

◎議案第30号・八代市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正について

○委員長（増田一喜君） 次に、議案第30号・八代市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正についてを議題とし、説明を求めます。

○首席審議員兼建築指導課長（宮端晋也君）

それでは、引き続き説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○首席審議員兼建築指導課長（宮端晋也君）

議案第30号・八代市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正について御説明させていただきます。

議案書は77ページからでございます。また、別途配付しております資料も併せて御覧いただきたいと思っております。

改正理由でございますが、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律並びに同法施行令の改正に伴い条ずれが生じたため、引

用している条項の整理を行うものでございます。

改正内容は、資料 2 ページの新旧対照表のとおりでございます。

施行日は令和 3 年 4 月 1 日としております。

以上で説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） それでは、これより採決いたします。

議案第 30 号・八代市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部入れ替わりのため小会いたします。

（午後 3 時 47 分 小会）

（午後 3 時 48 分 本会）

◎議案第 31 号・八代市浄化槽条例等の一部改正について

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、議案第 31 号・八代市浄化槽条例等の一部改正についてを議題とし、説明を求めます。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 下水道総務課、奥村でございます。

着座にて説明させていただきます。

○委員長（増田一喜君） どうぞ。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 議案第 31 号・八代市浄化槽条例等の一部改正についてを説明いたします。

別紙の、右上に建設環境委員会用資料・下水道総務課と書かれた資料を御覧ください。

改正する条例は、1 の改正する条例に記載しております 3 件です。

2 の改正理由を御覧ください。令和 2 年の浄化槽法の改正により、以下の 3 点が示されました。

①市町村は県との協議を経て、浄化槽処理促進区域を指定することができる。

②市町村は設置計画を作成し関係者の同意を得て浄化槽処理促進区域内に公共浄化槽を設置できる。

③公共浄化槽の設置に同意した建築物の所有者は、当該建築物の汚水を公共浄化槽に流入させるための排水設備を遅滞なく設置しなければならないです。

本市の泉地区、東陽地区におきましては、氷川水系が飲料水として利用され、水環境の保全を積極的に図る必要があることから、集合処理方式で整備を図る区域以外を浄化槽市町村整備推進事業として整備してまいりました。浄化槽法改正に伴い、この事業が公共浄化槽等整備推進事業へ変更され、引き続き市町村設置浄化槽として整備をするため、浄化槽処理促進地域の指定を行ったことで、関係条例に変更が生じたことが今回の提案理由です。

改正点は、3、条例の主な改正点の（1）から（3）のとおり、浄化槽法の改正に合わせ、文言の修正を行います。

なお、本条例の規定は令和 3 年 4 月 1 日から適用します。

以上で説明を終わります。御審議よろしくお願いたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(増田一喜君) 意見はないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第31号・八代市浄化槽条例等の一部改正については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○委員長(増田一喜君) 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部入替わりのため小会いたします。

(午後3時51分 小会)

(午後3時52分 本会)

◎議案第32号・八代市宅地分譲審査委員会条例の制定について

○委員長(増田一喜君) 本会に戻します。

次に、議案第32号・八代市宅地分譲審査委員会条例の制定についてを議題とし、説明を求めます。

○用地課長(橋本勇二君) 用地課の橋本でございます。よろしく申し上げます。

私のほうからは、議案第32号・八代市宅地分譲審査委員会条例の制定について説明させていただきます。

座って説明させていただいてよろしいでしょうか。

○委員長(増田一喜君) はい、どうぞ。

○用地課長(橋本勇二君) 今回の案件は、現在要綱にて設置しておりますものを、地方自治法に規定される附属機関であるため条例において設置しなければなりませんので、条例の制定をお願いするものでございます。

また、今回の条例は、要綱にありました条文を基に見直し、加筆修正したものでございます。

議案書のほうは、84ページのほうをお願いしたいと思います。

現在、八代市宅地分譲審査委員会につきまし

ては、平成17年8月1日の1市2町3村の合併時に、千丁町、東陽町、泉村にありました宅地分譲地の運営を引き継ぎまして、分譲希望者の資格審査、分譲価格の算出、また、貸付地の運営などを行う機関として設置されたものでございます。

現在管理いたしておりますのは、泉町にあります泉運動広場の横のグリーンタウン平——平と書きましてダイラと読みます、に11区画と、ふれあいセンターいずみ物産館の横のグリーンタウン中尾に5区画の計16区画でございます。

それでは、条例の内容を、議案書84ページで説明したいと思います。

まず第1条で設置の目的について、第2条で所掌事務、審議内容等について、第3条、組織では委員の構成等、委員の数を10名以内として定めています。第4条、任期を2年としています。第5条で会長、副会長の事務について定めております。第6条、会議について、第7条で庶務事務について、第8条で委任事項について定めております。

最後に附則で施行日を定めております。

以上、提出事案の説明とさせていただきます。御審議方よろしく申し上げます。

○委員長(増田一喜君) それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(増田一喜君) ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。意見ありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(増田一喜君) ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第32号・八代市宅地分譲審査委員会条例の制定については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部は退室願います。（「どうもありがとうございました」と呼ぶ者あり）お疲れさまでした。

○委員長（増田一喜君） 以上で付託されました案件の審査は全部終了いたしました。

お諮りいたします。

委員会報告書及び委員長報告の作成については委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

小会します。

（午後3時56分 小会）

（午後3時58分 本会）

◎所管事務調査

- ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
- ・生活環境に関する諸問題の調査

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、当委員会の所管事務調査2件を一括議題とし、調査を進めます。

当委員会の所管事務調査は、都市計画・建設工事に関する諸問題の調査、生活環境に関する諸問題の調査、以上の2件です。

このうち、都市計画・建設工事に関する諸問題の調査に関連して4件執行部から発言の申し出がっておりますので、これを許します。

- ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
（市道腰越～平線について）

○委員長（増田一喜君） それでは、市道腰越～平線についてをお願いいたします。

○建設政策課長（竹原彰吾君） こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）建設政策課長の竹原でございます。隣がですね、土木課長の

小原でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、所管事務調査のですね、市道腰越～平線について説明いたします。着座にて説明させていただいてよろしいでしょうか。

○委員長（増田一喜君） はい、どうぞ。

○建設政策課長（竹原彰吾君） まずもっておわびでございますが、事前にですね、お配りしておりました資料がございましたが、ちょっと修正がございましたので、再度先ほど配らせていただいております。そちらの資料のほうをお願いいたします。

本案件は、泉町の市道腰越～平線において、令和元年7月に発生しました大規模な斜面崩壊への対応について御説明するものでありますが、昨年3月以来で約1年ぶりの報告となることから、おさらいも兼ねて、これまでの経緯から説明させていただきます。

まず資料のですね、先ほどお配りした資料ですが、1ページの開いていただきまして、1ページの位置図をお願いいたします。

本被災箇所は、泉町の五家荘の葉木地区、ここはですね、二本杉と樅木ですね、そのほぼ中間の位置になります。五家荘になりますけれども、その地区にあります。

続きましてですね、2ページ目をお願いいたします。これまでの経緯についてですね、御説明いたします。

平成30年5月7日に豪雨によるのり面の一部崩壊が発生したため、令和元年4月下旬から災害復旧工事に着手しております。

その災害復旧工事中である令和元年7月8日に大規模な斜面崩壊が発生し、7名の方々が孤立されました。ですがですね、翌日の仮の道の設置により、孤立は解消はしております。

災害の規模が大きかったため、地滑りであるか、または表層崩壊であるかの判断のため、被災箇所の動態観測を継続的に行う中で、昨年ですね、1月に災害査定を受け、令和元年度災

害として認定を受けております。

以上がですね、前回の所管事務調査における報告でございます。その後の進捗につきまして、こちらの資料でですね、朱書きをしておりますけれども、順を追って説明してまいります。

まずですね、令和2年4月に地質調査業務委託を継続して発注しております。今回ですね、本市でも大きな被害を受けましたが、7月の豪雨ですね、こちらのデータを基にですね、解析作業を行い、この解析結果を8月に県の河川課と9月に県南広域本部の林務課へですね、それぞれ説明をしております。

その後、10月になりますけれども、アドバイザーである熊本大学の北園名誉教授、こちらのほうへ結果報告をするとともに、意見聴取を行いましたけれども、教授の見解といたしましては、地滑りではなく表層崩壊との結論を出されております。

この結果を受け、今年1月に県南広域本部林務課と今後の対応について協議を行っております。

今後の予定でございますが、県南広域本部林務課は、令和3年度にですね、山腹復旧工事を発注すべく、林野庁との協議を進めていくとのことございました。

一方、本市の対応でございますが、令和元年度の増破による再調査に向けて、県河川課との協議を進めてまいります。

市道の復旧につきましては、山腹復旧工事の進捗状況を確認しながら、市道の土砂撤去を行った後に測量設計を行い、必要な事務手続を経て、令和4年度の工事発注を目指したいと考えております。

最初の被災からですね、3年が経過しておりますことから、関係機関と密に連携し、スピード感を持って早期復旧に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、腰越～平線の現状報告とさせていただきます。

きます。

○委員長（増田一喜君） 本件について何か質問、御意見等ありませんか。何かありませんか。

○土木課長（小原聖児君） すみません。今、竹原課長のほうから御説明をいたしましたけども、ちょっと訂正をお願いしたいと思います。

朱書き部分のですね、上から2行目。熊本豪雨で、Rの3を2に。資料のほうの修正でございます。すみません。

以上でございます。

○委員長（増田一喜君） 何か質問ありませんか。

○委員（高山正夫君） これは林道として最初造るんですか。県南広域本部林務課がするということは。

○建設政策課長（竹原彰吾君） 県のほうがされますのは山腹ですね。要は斜面がずっと崩れていきますので、上の部分。道路とですね、ちょっと上までののり面の部分、そこまでを市のほうでしようとしています。その上の部分をですね、県のほうで施工されるということになります。

○委員（高山正夫君） 了解しました。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

以上で、市道腰越～平線についてを終了します。

執行部入替えのため小会いたします。

（午後4時06分 小会）

（午後4時07分 本会）

・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
（第2期八代市営住宅長寿命化計画について）

○委員長（増田一喜君） 本会に戻します。

次に、第2期八代市営住宅長寿命化計画についてをお願いします。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） こんにちは。

(「こんにちは」と呼ぶ者あり) 住宅課、下村です。隣は、この本計画の担当でございます岡田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、着座して説明させていただきます。

○委員長(増田一喜君) はい、どうぞ。

○理事兼住宅課長(下村孝志君) 第2期八代市営住宅長寿命化計画についての説明でございます。

お手元にこの所管事務調査とお書きしました資料でございますでしょうか。

本計画では、市営住宅の住棟ごとに改善、修繕などの活用手法を定め実施し、住宅を長期活用することで効果的なコストの削減、コストの平準化、これを図ることを目的としております。

また、本計画の改善計画策定が大規模改修等の際の国庫補助申請に必要なアイテムでございますので、結果として、この補助金を活用し住宅の長寿命化を行っていると言えることとなります。

前回の計画は、平成23年度から令和2年度までの計画でしたけれども、それに引き続きまして今回、第2期の計画、期間は令和3年度から令和12年度までの10年間ということになります。

本計画は、国の公営住宅等長寿命化計画策定指針に基づき策定しておりますが、平成28年8月にこの策定指針が改定されまして、第2期計画にありましては、今後の人口の増減を推計することによって、本市の市営住宅管理戸数においても目標となる具体的な管理戸数を定めるなど、新たな章を組み込みまして今後の需要に合わせた計画を策定しております。

詳細な内容につきまして、担当のほうから説明しますので、よろしくお願いいたします。

○住宅課市営住宅係参事(岡田純哉君) 担当の岡田です。第2期八代市営住宅長寿命化計画の策定について説明させていただきます。

座って説明させていただきます。

○委員長(増田一喜君) はい、どうぞ。

○住宅課市営住宅係参事(岡田純哉君) お手元の第2期八代市営住宅長寿命化計画概要版を御覧ください。薄紫の冊子になります。

まず初めに、2ページをお開きください。ここでは、市営住宅の状況の把握、整理を行っております。

(1) 市営住宅の状況、①管理戸数ですが、本市は市営住宅29団地、1319戸の住宅を管理しております。

中段、②構造別、建築年度別の状況ですが、昭和56年より前に建築された住戸が835戸と全体の6割を超えていますが、耐震性については問題がないことが確認されております。

3ページを御覧ください。

上段の③耐用年限経過状況ですが、耐用年限の2分の1を経過しているのは1053戸で、全体の約8割を占めており、既に耐用年限を経過しているものが4割を占めております。

中段の④居住環境水準状況については、最低居住面積水準未達の世帯は4.8%と少なく、1世帯当たりの住居の広さは十分に確保されているものと思われまます。しかし、汚水処理施設の整備率は61.6%であり、十分に整備されているものではありません。

続きまして、11ページをお開きください。

(2) 入居者の状況ですが、令和2年7月31日現在ですが、入居数は1134戸で、入居率は86%、現在入居の募集を行っていない政策空き家を除くと89.4%となっております。前回調査を行った平成22年度の調査では、入居率は98.4%で、前回の計画策定のときより入居率は低くなっております。

②居住年数、③世帯主年齢等については、10年以上入居されている方が6割を超え、65歳以上の世帯主が5割を超えています。

12ページをお開きください。

④世帯人員、⑤の収入状況により、単身世帯

が4割近くを占め、9割近くの世帯が低所得の世帯であり、生活困窮世帯の住宅確保の役割を果たしているものと考えられます。

それでは、14ページをお開きください。

今後、市営住宅をどのように維持管理していくか、長寿化計画の対象と事業手法の選定について御説明いたします。

表は、現在、本市で管理しております市営住宅です。一番古い団地はナンバー1の迎町団地で、昭和25年に建設されており、新しい団地では、ナンバー18の植柳上町第一団地が平成14年に建設されています。

続きまして、15ページを御覧ください。

ここでは、国の指針に基づき、各団地で1次判定から3次判定まで行い、今後維持管理を続けていくのかなどの判断をいたします。その前に、上から5行目、①の需要の見通しに基づく将来のストック量の推計を行っております。

16ページをお開きください。

ここでは統計等により、将来の本市の世帯数の見通しの表を示しています。一般世帯数は、令和2年度では4万4812世帯、令和2年度では3万5587世帯と、74.2%減少する見込みです。

また、市営住宅を必要とされる著しい困窮年収未満の世帯数も同じく減少していくと思われまます。これに伴って、本市の管理戸数においても、今後の需要に合わせて削減していく必要があると考えられます。

18ページをお開きください。

市営住宅は、住宅セーフティネットとしての役割確保を前提にしながら、公共施設等総合管理計画と整合を図り、将来の世帯数や財政の規模に応じた適正な戸数とするため、表に示してあります種類別の管理戸数の目安を設定いたしました。

令和2年度の市営住宅の合計は、表の一番下にあります1319戸となっておりますが、本

計画の10年後である令和12年度では、1153戸を管理戸数の目安としていきたいと考えております。ただし、市営住宅は災害対応などの緊急時の受皿としての役割を考慮して、目標管理戸数の目安よりも余裕を持った戸数を維持管理していく必要があります。

それを踏まえまして、再度15ページにお戻りください。

②、③、④の1次判定、2次判定、3次判定により、市営住宅を改善、維持管理、用途廃止、建替の事業として選定していきます。

1次判定では、社会的特性と物理的特性の各項目を判定します。団地、住棟別にAグループとBグループに分けますが、今回の判定では、八代市の団地は継続管理について判断を留保するBグループになります。

その次に、2次判定を行います。2次判定では、Bグループはフロー①で設定した将来の目標管理戸数を踏まえて、団地の優先順位を検討します。耐用年限を経過しているものは優先度を低い、耐用年限未満のものは優先度を高いとします。優先度が低いものは、耐用年限経過年数の大きいものから、将来の目標管理戸数を踏まえて用途廃止と判定します。優先度が高いものは、改善か建替になりますが、その判断に当たっては、ライフサイクルコストを算出し、それが抑えられるように判定します。耐用年限2分の1未満のものは、維持管理と判定しています。

その次に、3次判定を行います。3次判定では、集約・再編の可能性や、事業費、事業実施時期の調整、長期的な管理の見通し、前回計画の判定を考慮し、総合的に判定しています。

その結果が、19ページと20ページのとおりです。こちらをお開きください。

選定結果は、改善、維持管理、用途廃止、建替と大きく4つに分類されますが、優先的な用途廃止については、木造の耐用年限がかなり経

過しているものとして分類しております。

表の右側は、前回の平成23年度から令和2年度の計画を示しております。この中で特に変更されたところは、20ページ、ナンバー19の坂本駅前団地を建替としております。現在、坂本駅前団地は、7月豪雨により被災を受け、そのままの状態となっております。今後、災害公営住宅建設を検討してまいります。状況に応じて解体や建て替えを行いたいと思います。

また、ナンバー8の若宮団地、ナンバー20の中次団地については建替（検討）としておりますが、そのときの状況に応じて通常の建て替え事業のほかに、既存の民間住宅を活用した借上げ公営住宅の供給などについて幅広く検討していくことが必要であると考えています。

また、判定で改善となっているものにつきましては、27ページから30ページにあります長寿命化のための事業実施予定として、各団地の改善計画を示しております。

令和3年度については、築添団地の給水設備の改善を行う予定ですが、令和4年度以降の計画については財政的な面から全ての団地の改善が計画どおりに進まないこともあり、毎年度当初、国庫補助金の申請を行う場合には、改善計画はその都度更新を行い、国へ変更申請を行っているところです。

今回策定いたしました本計画を基に、市営住宅の長寿命化を進めてまいります。建て替え等につきましては、そのときの状況を十分に検討し、対応してまいります。

以上で説明を終わらせていただきます。

○委員長（増田一喜君） 本件について何か質問、御意見等ありませんか。

○委員（大倉裕一君） 毘舎丸団地なんですけど、4車線道路の東側と西側に1棟だけ残っているんですね。東側の部分だけを資産売却という形ができないのかというふうに思うんですよ。もう今の財政状況とかからすると、管理を

するのも結局お金がかかっていくわけですので、行政としてはより早くですね、スリムになって、資産を売却しながらやっていくほうがいいのではないかと私は思っているんですけど、法律的にできない部分があるのか。その辺りをお聞かせいただければと思います。

○委員長（増田一喜君） どなたがお答えになりますか。

○理事兼住宅課長（下村孝志君） 今、大倉委員おっしゃった毘舎丸団地に関してはですね、公道を挟んで2つに分かれているので、片一方のほうだけでも早く用途廃止できないかというようなことだったかと思います。

もともとはですね、全ての団地、まだ1点裏側にあるということで廃止してないんですけども、ちょっと検討していきたいと思います。すみません、即答できませんけれども。申し訳ありません。

○委員（大倉裕一君） 意見的なところになるんですけど、次、全体として売却をするという形になったとしても、ガソリンスタンドの隣の部分の市営住宅の用途はかなり制限されてくると思うんですよ。ということを考えるならば、現在の東側の更地になった部分の用地ですね、こちらのほうを早めに売却したほうが、もう市の持ち出しも少なくなるでしょうし、収入確保という点からは有効な方法だと私は思っておりますので、参考にといいますか、意見として述べさせていただきたいなというふうに思っております。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

以上で、第2期八代市営住宅長寿命化計画についてを終了します。

執行部入替えのため小会いたします。

（午後4時24分 小会）

(午後4時25分 本会)

・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査

(八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略について及び八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略について)

○委員長(増田一喜君) 本会に戻します。

次に、八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略について及び八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略についてをお願いいたします。

○下水道総務課長(奥村勝己君) 下水道総務課の奥村でございます。

着座にて説明させていただきます。

○委員長(増田一喜君) はい、どうぞ。

○下水道総務課長(奥村勝己君) 本日御報告させていただきますのは、下水道部局におきまして策定いたしました八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略と八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略でございます。

説明に入ります前に資料の確認をお願いいたします。右上に建設環境委員会資料と書かれた所管事務調査、八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略について、八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略についてと、別とじの八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略及び八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略と表紙がついているそれぞれ7ページの冊子状のもの、以上3つでございます。

ではまず、所管事務調査をおめくりいただきまして、八代市農業集落排水処理施設事業、八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略策定についてを御覧ください。こちらは経営戦略の概要、策定理由等を記載した資料となっております。

まず、1の経営戦略の概要についてですが、経営戦略とは、各公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画のことで、その中では、的確な現状把握を行った上で徹底した効率化と経営健全

化を図り、経営基盤の強化と財政マネジメント向上のための取組を記載することとなっております。

次に、2、経営戦略の策定理由ですが、保有する施設の老朽化に伴う更新期の到来や、人口減少に伴う料金収入減等により、今後は経営環境に厳しさが増していくことが予想されるため、重要なインフラである排水処理事業を将来にわたり安定的に持続可能とするために策定いたしました。

また、総務省が令和2年度までに全ての公営企業に対し、策定率100%を目標としています。

次に、3の策定要件につきましては、計画期間は10年以上であることや、計画期間内は収支が均衡していること、議会や住民に公開されていることなどでございます。

以上、経営戦略の概略について説明を終わります。

ここからは、それぞれの経営戦略について御説明いたします。

まず、表紙に、八代市農業集落排水処理施設事業、令和3年度から令和12年度と書かれている冊子をお願いいたします。

主な部分について説明いたします。1ページを御覧ください。

1の事業概要は施設の使用料、2ページは組織や民間活用など、それぞれの現状を記載しております。

3ページの2、経営の基本方針を御覧ください。施設整備後20年以上が経過していることから、改築・更新を計画的に進めていくこと、また、独立採算性を高めるため、令和6年度から公営企業会計を適用すべく準備を進めていくことなどを基本方針として挙げております。

なお、公営企業会計の適用につきましては後ほど説明いたします。

次に、3、投資・財政計画の(2)②の収支

計画のうち財源についての説明を御覧ください。

財源につきましては、使用料と繰入金が主な収入となっており、今後の改修は使用料の減少を見込みつつ、繰入金とのバランスを取りながら収支計画を策定することとしております。

4ページをお願いします。今回の経営戦略のポイントとなる部分でございます。

(3) ①今後の投資についての考え方・検討状況の表の一番上、広域化・共同化・最適化に関する事項を御覧ください。

ここでは、広域化について検討を行ったものの、概算では広域化より現在の個別処理のほうが安価との結果が出されたとしておりますが、近隣自治体との情報交換を行い、個別処理や共同化などの事業効率の向上について今後も検討したいと考えております。

次に、②今後の財源についての考え方・検討状況の、使用料の見直しに関する事項を御覧ください。

今後も使用料の見直しをする際は、審議会を設置し、公正かつ公平な負担になるよう努めてまいります。

下段の4、経営戦略の事後検証、更新等に関する事項で、見直しは5年をめどとしておりますが、企業会計移行後は見直しが必要であると考えております。

5ページ、6ページ、収支計画は、これまで説明してまいりました使用料収入や改修計画などを反映させて作成しており、策定要件にありますとおり収支は均衡しております。

最後の7ページ、経営比較分析表を御覧ください。

これは、経営の現状及び課題を把握するための資料で、右下の全体総括のとおり、全体的には類似団体と同じか、比較的よい数値の結果が出ております。

以上で、八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略の説明を終わります。

次に、八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略について説明いたします。

表紙に八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略、令和3年度から令和12年度と書かれている冊子をお願いいたします。

こちらにも主な部分の説明といたします。また、先ほど御説明しました農業集落排水の経営戦略と重複する部分は割愛させていただきます。

1ページ、2ページは先ほどと同様ですので、3ページをお願いいたします。

3(2) ①収支計画のうち投資についての説明を御覧ください。今回の経営戦略のポイントとなる部分でございます。

現在、更新は発生しておりませんので、新設を年4基で計画しております。今後は、経年劣化による更新が考えられますが、人口減による使用料収入の減など経営状況を考慮し、将来的には更新も含め計4基で対応を図っていくとしております。

4ページをお願いいたします。

(3) ①の表の3番目、民間活力の活用に関する事項を御覧ください。

本市が管理している浄化槽は、東陽、泉地区のみであることから、今後の管理方法については、他市町村での民間委託などを参考に、本市においても実施可能であれば検討してまいりたいと考えております。

5ページ、6ページの収支計画は、今後の使用料収入や設置基数など先ほど説明しました内容を反映させ作成しており、こちらも収支は均衡しております。

最後の7ページ、経営比較分析表を御覧ください。

右下の全体総括のとおり、類似団体より悪い数値となっております。人口減により維持管理費が多額になっているというのが要因と思われるので、さらなる歳出削減など事業の見直しを検討してまいります。

以上で、八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略の説明を終わります。

○委員長（増田一喜君） 本件について何か質問、御意見等はありませんか。ないですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

以上で、八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略について及び八代市特定地域生活排水処理事業経営戦略についてを終了します。

・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査

（農業集落排水処理施設事業及び特定地域生活排水処理事業の地方公営企業法の適用について）

○委員長（増田一喜君） 次に、農業集落排水処理施設事業及び特定地域生活排水処理事業の地方公営企業法の適用についてをお願いいたします。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 続きまして説明させていただきます。下水道総務課長の奥村でございます。

着座にて説明をさせていただきます。

○委員長（増田一喜君） どうぞ。

○下水道総務課長（奥村勝己君） 本日御報告させていただきますのは、下水道部局で管理しております農業集落排水処理施設事業及び特定地域生活排水処理事業における地方公営企業法の適用についてでございます。

説明に入ります前に資料の確認をお願いいたします。所管事務調査、農業集落排水処理施設事業及び特定地域生活排水処理事業の地方公営企業法の適用についてという表紙がついている資料でございます。お配りしております資料は、法適用、いわゆる企業会計への移行に向け、基本方針を取りまとめたものとなります。この資料に沿って説明させていただきます。

まず、1、基本的事項の1、事業の現状になりますが、両事業につきましては、東陽地域、泉地域を対象としまして、生活環境の改善と公

共用水域の水質保全を図る目的で実施しております。

経営状況としましては、一般会計繰入金に頼らざるを得ない状況にあり、また、今後、施設老朽化に伴う更新需要の増大や人口減少による使用料収入の減少など、さらなる経営環境の悪化が懸念されているところです。

次に、2、地方公営企業法の適用意義についてですが、地方公共団体の財政状況は年々厳しさを増しており、繰出金等、公営企業が地方公共団体の財政運営に与える影響も大きいことから、経営基盤強化が急務となっております。

また、法適用は、経営基盤の強化における取組を柱とされ、長期的に安定した事業運営を実施するためにも、経営の健全化や計画性、透明性の向上を図ることが求められており、両事業ともに取り組むべき喫緊の課題といえます。

次のページをお願いします。

官公庁会計と企業会計の違いについてですが、表1に相違点を幾つか記載しておりますが、大きな違いは下の予算イメージ図のように、従来の特別会計は歳入歳出予算で構成されますが、企業会計へ移行した場合は、管理運営に係る収支である損益取引と建設改良費等に係る収支である資本取引で区分され、経営状況を明確に把握できるようになります。加えて、企業会計固有の損益計算書や貸借対照表などの財務書類も作成する必要があります。

次のページをお願いします。

法適用のメリットについてですが、主に今説明いたしました損益取引と資本取引の明確化など6項目が上げられます。

次に、5、推進への動きについてですが、総務省は公営企業の抜本的な改革の取組の1つとして地方公営企業法の適用を推進しており、平成31年1月付総務省通知により新たに、拡大集中取組期間、H31からR5が設定されております。図で申しますと、緑矢印部分の新ロー

ドマップと記載してある期間になります。両事業は、この拡大集中取組期間内に移行するよう要請されているところです。

次のページをお願いします。

法適用範囲と熊本県内の状況の1、適用範囲についてですが、適用の範囲には全部適用と一部適用があり、表2に対象となる事業と適用内容を示しております。この適用内容の全て適用することを全部適用、真ん中の財務規定等のみを適用することを一部適用といいます。

今回の両事業は、表で言いますと、対象となる事業の3段目に該当し、全て任意適用となっており、自治体の判断において条例で定めるところにより適用できるとされております。

なお、既に企業会計へ移行している水道事業は全部適用、下水道事業と簡易水道事業は財務規定等のみを適用した一部適用となっております。

次に、2、県内の状況についてですが、表3に県内14市の令和元年度時点の状況をまとめております。

農業集落排水処理施設事業では6団体、特定地域排水処理事業では3団体が同様の事業を有しており、特定地域排水処理事業の玉名市、天草市を除く全ての事業が既に法適用済みか適用予定となっております。

次のページ、3、適用範囲の決定及び適用期日についてですが、本課としましては、平成27年度より既に企業会計へ移行している下水道事業の運営実績から、財務規程等の適用のみで財政状況の的確な把握や適切な経営分析が行えるなど十分な効果が得られていること、また、会計についても、下水道事業会計と一体的な運用を予定していることなどから、既に移行している下水道事業と同様に、適用の範囲を一部適用とし、移行業務に着手します。

なお、移行目標期日につきましては、先ほど

経営戦略の中でも説明しましたとおり、総務省の要請を踏まえ、令和3年度から令和5年度まで3年間を準備期間とし、令和6年4月より法適用し、企業会計へ移行する予定としております。

最後に、法適用までのスケジュールを記載しております。来年度より準備を進め、令和5年度には条例等関係例規の改正や企業会計による予算編成等を実施していくこととなります。

以上、農業集落排水処理施設事業及び特定地域生活排水処理事業の法適用についての報告とさせていただきます。

○委員長（増田一喜君） 本件について何か御質問、御意見等はありませんか。ないですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

以上で、農業集落排水処理施設事業及び特定地域生活排水処理事業の地方公営企業法の適用についてを終了します。

そのほか、当委員会の所管事務調査について何かありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ありませんね。

以上で、所管事務調査2件についての調査を終了します。

次に、閉会中の継続審査及び調査の件についてお諮りいたします。

当委員会の所管事務調査2件については、なお調査を要すると思いますので、引き続き閉会中の継続調査の申し出をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもって建設環境委員会を散会いたします。

(午後4時43分 閉会)

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

令和3年3月15日

建設環境委員会

委員長